

# AhnLab Policy Center 3.0

## インストールガイド

バージョン 20091106

AhnLab Policy Center 3.0

AhnLab Policy Center 3.0 インストールガイド

Copyright (C) AhnLab, Inc. 2002-2009. All rights reserved.

このマニュアルの一部または全部を許可なく複写することはできません。

本書に記載されているすべての製品名は、  
該当各社の標章、商標または登録商標です。

■ 株式会社アンラボ カスタマーサポートセンター

住所：〒101-0021 東京都千代田区外神田 4-14-1 秋葉原 UDXビル 8階北

電話：03-5209-8610 FAX：03-5294-7307

e-mail：aljts@ahnlab.co.jp

## はじめに

◆ AhnLab Policy Center 3.0 のマニュアルは 2 分冊になっています。

- APC 3.0 インストールガイド
- APC 3.0 リファレンスガイド（機能説明書）

◆ APC 3.0 インストールガイドの構成

このインストールガイドは AhnLab Policy Center 3.0 を購入されたユーザーを対象に作成しています。目次順にインストールし設定することによって、AhnLab Policy Center の基本操作が理解できるように構成されています。

※ このガイドは「AhnLab V3 License Media Pack」の構成で説明されています。

※ AhnLab V3 License Media Pack（以下[メディアパック CD]と表記）のプログラムはアンラボホームページからダウンロードできます。




このマニュアルは次の章にわかれています。

| 章                                   | 内容   |
|-------------------------------------|--|
| 「はじめに」                              | このマニュアルについて記載しています。                                |
| 「1 AhnLab Policy Center 3.0 動作構造」   | AhnLab Policy Center 3.0 の用語について記載しています。           |
| 「2 AhnLab Policy Center 3.0 用語の手引き」 | AhnLab Policy Center 3.0 の動作構造について記載しています。         |
| 「3 設定手順概念図およびインストールフロー」             | AhnLab Policy Center 3.0 のインストールおよび使用手順を図で記載しています。 |
| 「4 AhnLab Policy Center 3.0 インストール」 | AhnLab Policy Center 3.0 のインストール手順を記載しています。        |

## ◆ インストールガイドの表記

表記方法および記号を次に示します。

| 表記         | 内容   |
|------------|--|
| [ネットワーク状態] | メニュー、コマンド名、オプション、ウィンドウは半角の角カッコ（[]）で囲んで表記します。       |
| “アプリケーション” | フィールド名や強調は二重引用符（“ ”）で囲んで表記します。                     |
| 「****」を入力… | 入力する文字や、このマニュアルの他のページを示す場合は、全角かぎカッコ（「 」）で囲んで表記します。 |

| 記号やアイコン   | 内容                |
|---|-------------------|
|    | 説明やヒントなどを解説しています。 |
|  | 注意事項を示します。        |
|  | 例を示します。           |

# 目次

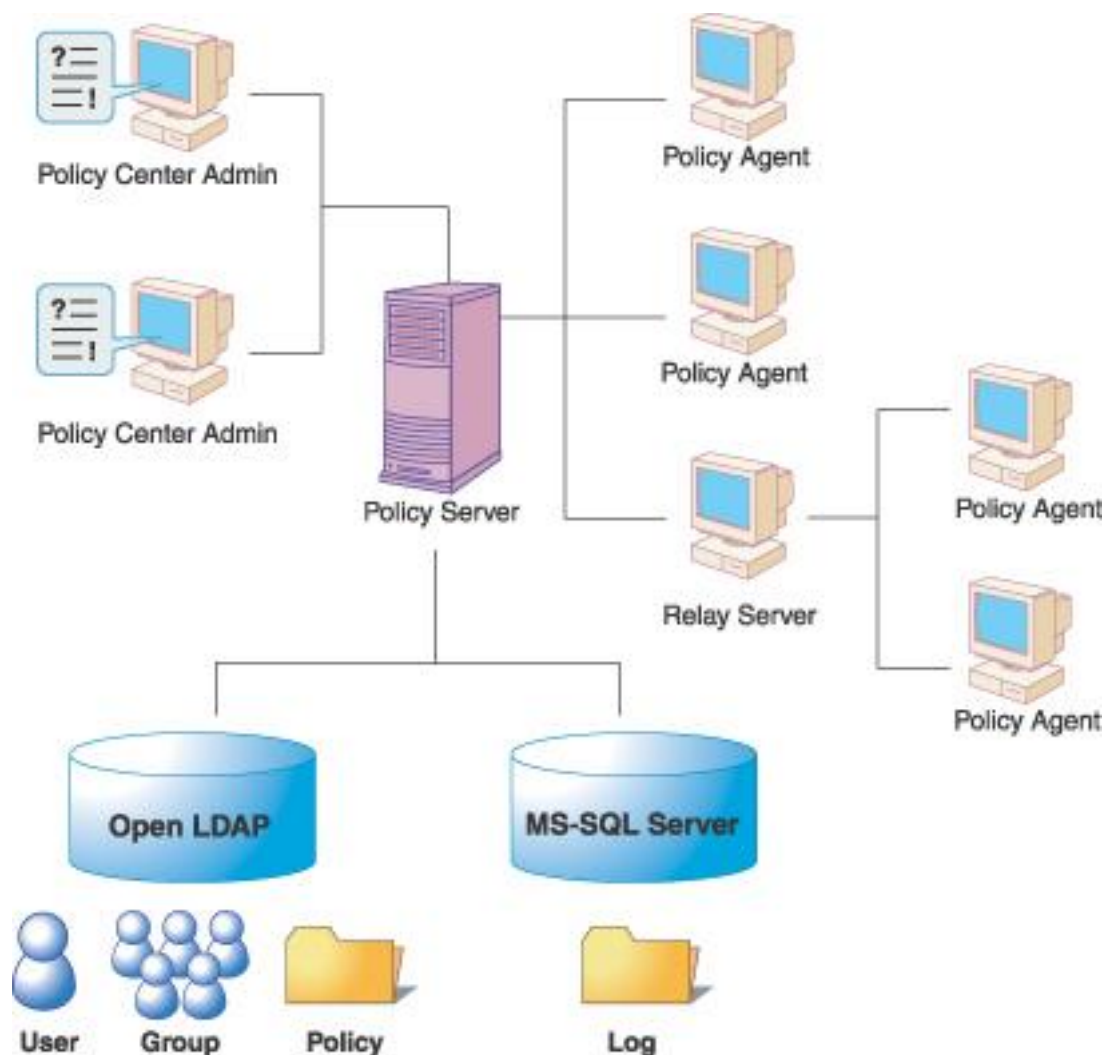
|        |                                      |    |
|--------|--------------------------------------|----|
| 1      | AhnLab Policy Center 3.0 の動作構造.....  | 5  |
| 2      | AhnLab Policy Center 3.0 用語の手引き..... | 7  |
| 3      | 設定手順概念図およびインストールフロー.....             | 10 |
| 3.1    | インストール概念図 .....                      | 10 |
| 3.2    | インストール/ポリシー設定手順フロー（数字は概念図番号）.....    | 11 |
| 4      | AhnLab Policy Center 3.0 インストール..... | 12 |
| 4.1    | インストール実行環境.....                      | 12 |
| 4.1.1  | Policy Server .....                  | 12 |
| 4.1.2  | Policy Center Admin .....            | 13 |
| 4.1.3  | Policy Agent .....                   | 13 |
| 4.1.4  | 推奨する環境 .....                         | 14 |
| 4.2    | Policy Server インストール .....           | 15 |
| 4.3    | Policy Server アンインストール .....         | 28 |
| 4.4    | Policy Center Admin インストール .....     | 29 |
| 4.5    | Policy Center Admin アンインストール.....    | 33 |
| 4.6    | Policy Center Admin ログイン .....       | 33 |
| 4.6.1  | 製品番号登録手順 .....                       | 33 |
| 4.7    | Policy Agent の作成と配布 .....            | 36 |
| 4.7.1  | 一般的な方法.....                          | 37 |
| 4.7.2  | プッシュインストール.....                      | 39 |
| 4.7.3  | NAT 環境の Policy Agent 作成と配布.....      | 43 |
| 4.8    | Policy Agent インストール/製品インストール.....    | 44 |
| 4.9    | Policy Agent アンインストール .....          | 45 |
| 4.10   | リレーサーバーの使用 .....                     | 46 |
| 4.11   | 管理 .....                             | 47 |
| 4.11.1 | Policy Agent インストール後の確認 .....        | 47 |
| 4.11.2 | ルーティン管理 .....                        | 48 |
| 4.11.3 | さまざまな管理方法 .....                      | 50 |
| 4.11.4 | 緊急時の管理.....                          | 59 |

# 1 AhnLab Policy Center 3.0 の動作構造

AhnLab Policy Center 3.0 の動作構造を次に示します。

- 管理するクライアント コンピュータにインストールする「Policy Agent」
- 管理サーバーにインストールする「Policy Server」およびデータベース
- 管理者のコンピュータにインストールする「Policy Center Admin」
- 管理サーバーにインストールする「Ahnlab Posture Validation Server」(必要時)
- Policy Server のファイル配布分散機能を担う「Relay Server」(必要時)

Policy Server のデータ保管場所は、アカウントとポリシー情報を保存する OpenLDAP と、エージェント状態情報およびログ情報を保存する MSDE (MS-SQL) サーバーで構成されます。





APC サーバーは他セキュリティ製品や自社管理システムなどと併用しないことを推奨します。OpenLDAP は、Policy Server と同じコンピュータにインストールしますが、MSDE はリモートコンピュータにインストールできます。

---

## 2 AhnLab Policy Center 3.0 用語の手引き

### ◆ Policy Server

- ①AhnLab Policy Server の略語。すべてのシステムを管理するための様々なデータを収集、整理、保管するソフトウェアおよびこのソフトウェアをインストールしたサーバーを指します。
- ②Policy Server は各 Policy Agent、各種イベントなどのデータを管理するため、OpenLADP と MSDE (または MS-SQL 2000 以上) などのソフトウェアが必要です。

### ◆ Policy Center Admin

管理者が Policy Server を利用して各 Policy Agent にコマンドを送信し、ユーザーおよびグループ、サーバーの管理などを行うソフトウェアです。

管理者はほぼすべての管理作業を Policy Center Admin を通じて行います。

### ◆ Policy Agent (Policy Agent ファイル)

各ユーザーのシステムにインストールされ、Policy Server、Policy Center Admin と通信をして Policy Server からポリシーや各種コマンドを受信し実行したり、ユーザーのシステム情報を報告するソフトウェアです。Policy Agent がインストールされていないシステムは管理者がコントロールすることができません。

メディアパック CD に含まれておらず、Policy Center Admin から Policy Agent ファイルを作成します。

### ◆ Relay Server

エンジンアップデートとファイル配布を Policy Server の代わりに行うよう設定されたエージェント コンピュータです。特定のエージェント コンピュータにインストールされたリレーサーバーモジュールはサービスとして動作し、Policy Server からファイルやエンジンを受信して最新の状態に維持して、Relay Server として設定されたグループのエージェント群にリレー (送信) します。

### ◆ Group Editor

Policy Center Admin と共にインストールされ、[ポリシー管理] でのグループ管理およびポリシーの再構成時に使用します。グループに一括して操作を適用できるようになっています。

### ◆ エージェント

Policy Agent がインストールされたシステムです。

## ◆ グループ

Policy Server を管理するためにエージェントを集めた集合体です。  
一般的に「部署」や「事業部」などの意味で使います。

## ◆ APCドメイン

Policy Server と、この Policy Server に登録されているグループおよび Policy Server の集合体です。一般的な意味のドメインは、このマニュアルではインターネット ドメインと表記します。

Windows NT 系サーバーで管理されるドメインは NTドメインと表記します。

- 上位 APCドメイン:2 つ以上の APCドメインが存在する時、下位に APCドメインを持っており、その下位 APCドメインにポリシーを適用したり、下位 APCドメインのログ情報を閲覧できるドメインです。
- 下位 APCドメイン:2 つ以上の APCドメインが存在する時、上位に APCドメインを持っており、上位のポリシーをダウンロードしたり、ログ情報などを上位 APCドメインに報告する APCドメインです。

## ◆ ポリシー

Policy Agent と V3 Internet Security の設定値を意味します。

Policy Agent ポリシーにはユーザーが Policy Agent の削除/終了/一時停止許可/一時停止拒否などがあります。

V3 Internet Security の設定値の詳細は、リファレンスガイドを参照してください。

## ◆ レポート

Policy Server に保存された各種データを整理して出力する機能です。

APC ドメイン内の資産管理やエージェントのインストール状況、ウイルス感染状況などを一目で確認できます。

出力形式はチャート、HTML、フィルタリング データ、印刷、Excel ファイルなどがあり、各種ファイル形式で保存も可能です。

## ◆ PVS

Posture Validation Server の略語で、CISCO の NAC の AAA サーバーに検疫機能を提供する機能です。

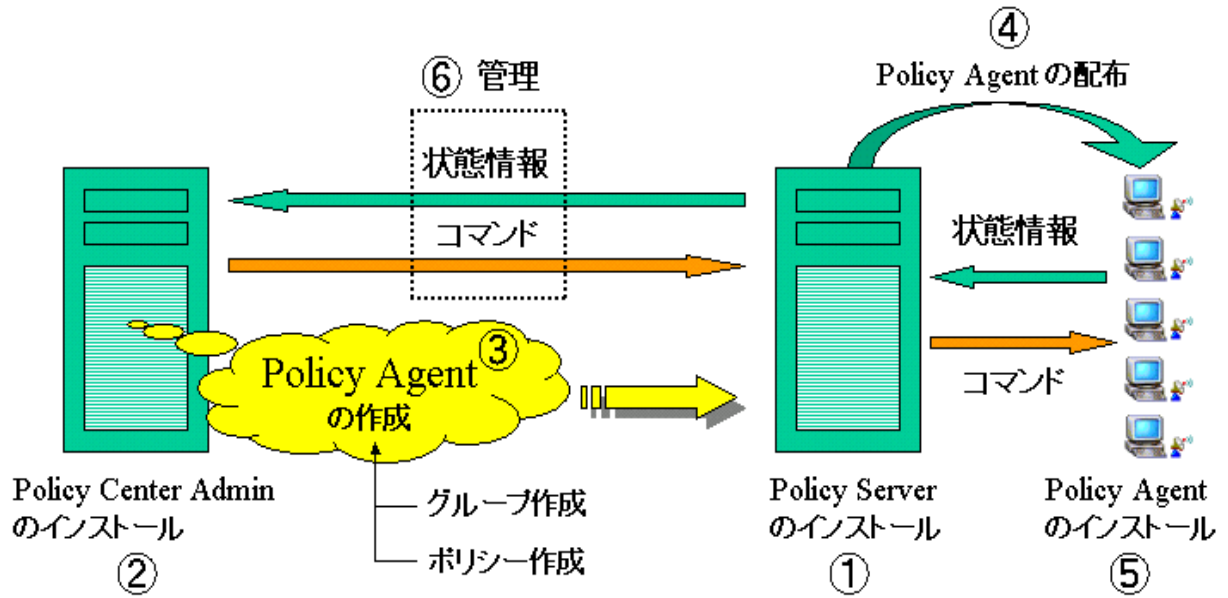


## ◆ NAC

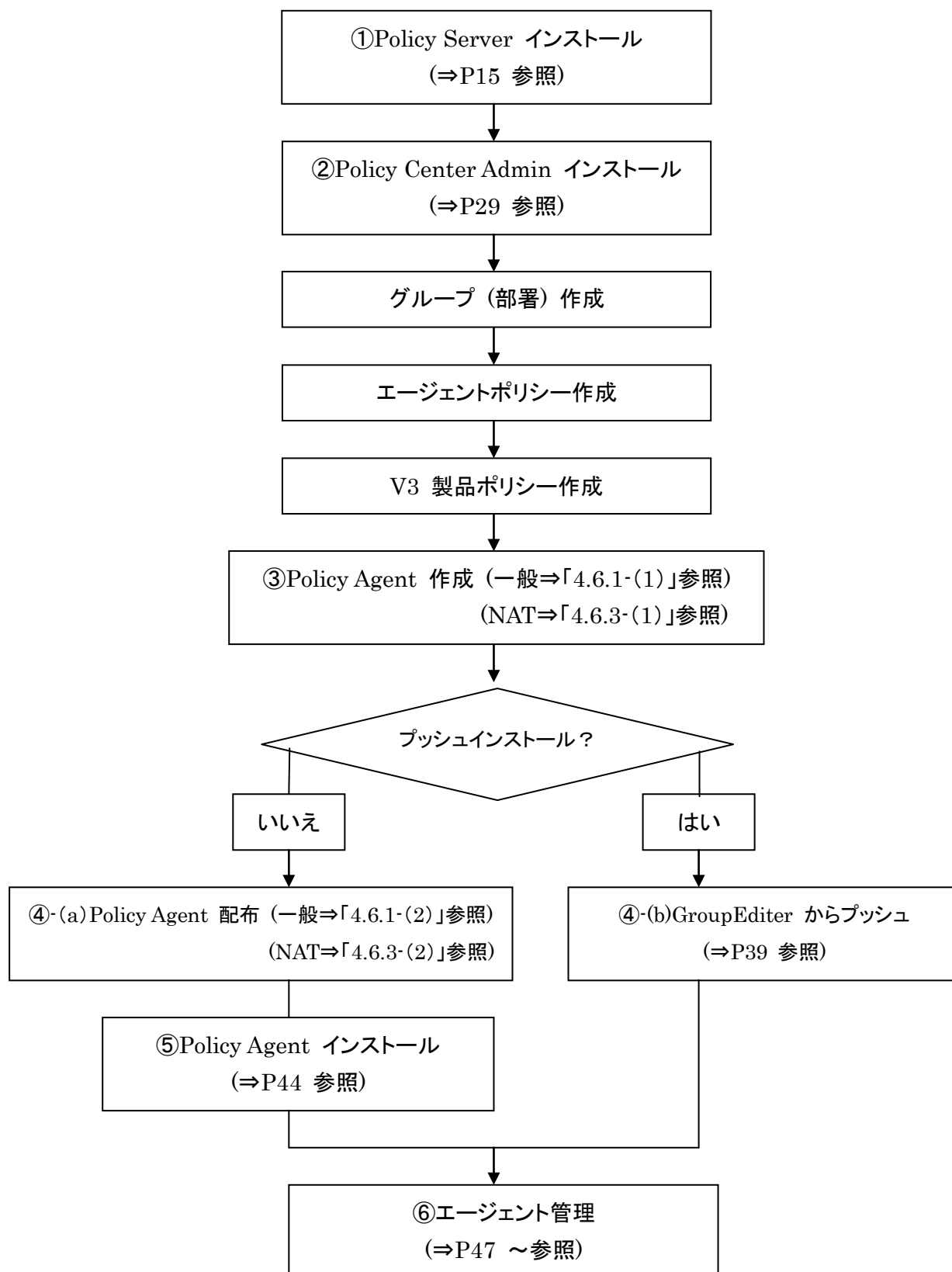
Network Admission Control の略語で、CISCO の AAA サーバーと連動して検疫を行うネットワークデバイスです。

### 3 設定手順概念図およびインストールフロー

#### 3.1 インストール概念図



### 3.2 インストール/ポリシー設定手順フロー（数字は概念図番号）



## 4 AhnLab Policy Center 3.0 インストール

### 4.1 インストール実行環境

#### 4.1.1 Policy Server

|                             |  |  |
|-----------------------------|--|--|
| ハードウェア<br>※2000 クライアント程度の場合 | CPU  | Pentium 1 GHz 以上   |
|                             | Memory   | 512MB 以上   |
|                             | HDD  | 3 GB 以上（データベース、OpenLDAP 運営のための空き容量を含む）   |
| OS                          | Windows 2000 Professional                            | 推奨仕様: Windows 2003 Server  |
|                             | Windows 2000 Server                                  |  |
|                             | Windows 2003 Server (32bit)                          |  |
|                             | Windows XP Professional                              |  |
|                             | APC により組み込まれる Web サービス                               | APCを導入する事により独自の Web サービスが組み込まれます。他の Web サービスが作動時にはポートを変更してください（World Wide Web Publishing Service 等）。   |
| ソフトウェア                      | MSDE SP3 以上または MS SQL Server 2000 以上(ORACLE と同時使用不可) | MSDE は AhnLab Policy Center 3.0 の CD-ROM に含まれていますが、MS SQL Server 2000 を使用する場合は別途購入が必要です。MS SQL Server 2000 を使用する場合には、動作モードで“混合モード”が選択されている必要があります。   |
|                             | OpenLDAP   | AhnLab Policy Center 3.0 の CD-ROM に含まれています。すでに LDAP がインストール済み（Microsoft Active Directory 等）でポート番号が競合する場合はポート番号を変更する必要があります（初期値のポート 1389 は、Active Directory が同様のポートを使用している場合には 1390 などのポートに変更してください）。 |
|                             | Policy Server インストーラ                                 | APC Server のインストール時に必要です。Windows Installer がインストールされていない場合、Microsoft の Web サイトからダウンロードしてください。  |

#### 4.1.2 Policy Center Admin

|        |                             |   |
|--------|-----------------------------|---|
| ハードウェア | CPU                         | Pentium 1GHz 以上   |
|        | Memory                      | 128MB 以上  |
|        | HDD                         | 200MB 以上  |
|        | その他                         | 解像度 1024 × 768 のモニターとグラフィックカード<br>NIC: 10/100 Ethernet Card |
|        | Windows 2000 Professional   |   |
|        | Windows 2000 Server         |   |
|        | Windows 2003 Server (32bit) |   |
|        | Windows XP Professional     |   |
| ソフトウェア | Internet Explorer 6.0 以上    |   |
|        | WinSock 2.0 以上              |   |
|        | Policy Admin インストーラ         |   |



Policy Center Admin は、エージェントのポリシー設定によって CPU やメモリの使用量が変化します。そのため、Policy Server と同じコンピュータにインストールしないことを推奨します。

#### 4.1.3 Policy Agent

| Policy Agent |                                  |   |
|--------------|----------------------------------|---|
| ハードウェア       | CPU                              | Pentium 200MHz 以上<br>IBM PC Compatible System |
|              | Memory                           | 64MB 以上                                       |
|              | HDD                              | 30M 以上  |
| OS           | Windows 95 (OSR2~)/98            |   |
|              | Windows NT4.0 Workstation (SP6~) |   |
|              | Windows 2000 Professional        |   |
|              | Windows XP/VISTA (32Bit 互換モード)   |   |
|              | Windows 7                        |   |
|              | Windows 2003 Server              |   |
|              | Windows 2008 Server              |   |
| ソフトウェア       | Internet Explorer 6.0 以上         |   |
|              | WinSock 2.0 以上                   |   |
|              | Policy Agent インストーラ              |   |

※ DHCP 可

V3 ウイルスブロック 2005 と V3 パーソナルファイアウォール 2005、V3IS 2007、V3 IS 8.0

の仕様は該当マニュアルを参照してください。

#### 4.1.4 推奨する環境

##### ◆ V3 製品管理（付加機能を使用しない場合）

| エージェント数     | CPU         | メモリ  | Database           | 備考                              |
|-------------|-------------|------|--------------------|---------------------------------|
| ～ 500       | 1 G × 1     | 512M | MSDE SP3           |                                 |
| 500 ～ 1000  | 1 G × 1     | 512M | MSDE SP3           |                                 |
| 1000 ～ 2000 | 1.8 G × 1   | 512M | MSDE SP3           | サーバーOS                          |
| 2000 ～ 2500 | 2.0 G × 1   | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS                          |
| 2500 ～ 4000 | 1.8G × 2 以上 | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS、<br>Dual CPU<br>SCSI HDD |

##### ◆ V3 製品管理（付加機能を使用する場合）

| エージェント数     | CPU         | メモリ  | Database           | 備考                              |
|-------------|-------------|------|--------------------|---------------------------------|
| ～ 500       | 1 G × 1     | 512M | MSDE SP3           |                                 |
| 500 ～ 1000  | 1 G × 1     | 512M | MSDE SP3           |                                 |
| 1000 ～ 2000 | 1.8 G × 1   | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS                          |
| 2000 ～ 2500 | 2.0 G × 1   | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS                          |
| 2500 ～ 4000 | 1.8G × 2 以上 | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS、<br>Dual CPU<br>SCSI HDD |

##### ◆ V3 パーソナルファイアウォール 2005 とスパイゼロ 2.0 管理

| エージェント数     | CPU         | メモリ  | Database           | 備考                              |
|-------------|-------------|------|--------------------|---------------------------------|
| ～ 300       | 1.8 G × 1   | 512M | MSDE SP3           |                                 |
| 300 ～ 800   | 2.0 G × 1   | 512M | MSDE SP3           |                                 |
| 800 ～ 1200  | 2.0 G × 1   | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS                          |
| 1200 ～ 1600 | 2.0 G × 1   | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS                          |
| 1600 ～ 2000 | 1.8G × 2 以上 | 1G   | MS SQL 2000 Server | サーバーOS、<br>Dual CPU<br>SCSI HDD |

※ 付加機能は、資産管理および共有フォルダ管理機能をサポートします。



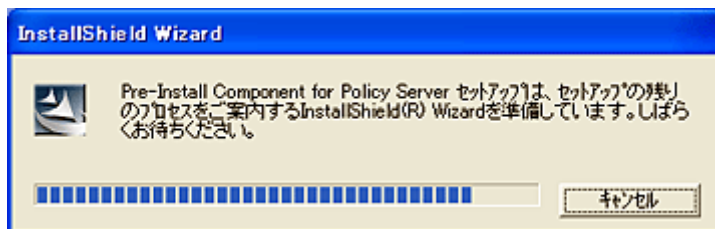
Policy Server は、設定によってリソース使用量が変化します。そのため、ファイルサーバーやメールサーバーなど他のサーバーと同時に使用しないことを推奨します。また、この推奨環境は Policy Center Admin で Default ポリシー

を設定し、Policy Server を他のサーバーと併用していない事を想定したスペックです。

---

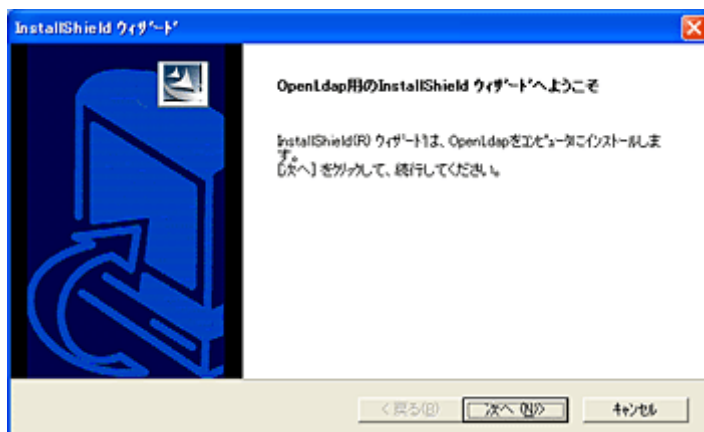
## 4.2 Policy Server インストール

- (1) CD #1 の「/1\_Master/1\_APC/Policy Server」を選択し Setup.exe をクリックします。



- (2) OpenLDAP インストール ウィンドウが表示されます。

すでに AhnLab Policy Center の OpenLDAP がインストールされている場合、このウィンドウは表示されません。表示されない場合には→ (6) へ



- (3) OpenLDAP の使用許諾契約が英文で表示されます。使用許諾契約の内容を確認し [はい] をクリックします。



- (4) OpenLDAP をインストールするフォルダを選択します。[参照] をクリックするとインストール フォルダを変更できます。



- (5) LDAP サービスが使用するポートを選択します。

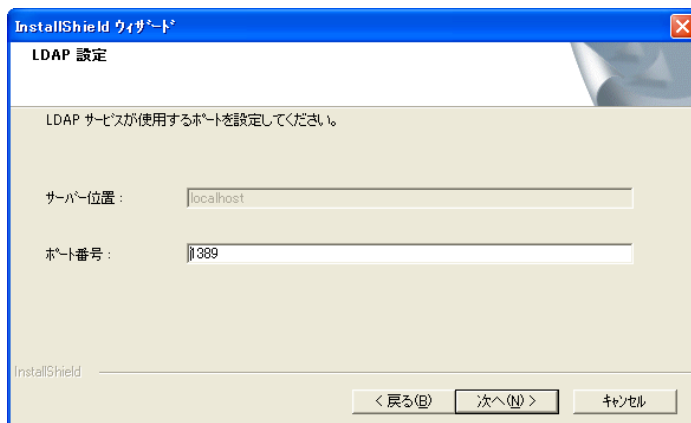


- ①**注意!!!** Policy Server をインストールしているシステムに Windows Server の Active Directory Service や他の OpenLDAP サービスを使用していますか？

はい→②へ

いいえ→④へ

- ②Policy Server をインストールしているシステムで既存 Windows Server の Active Directory Service や他の OpenLDAP サービスが使用されていても影響がないようにするために 1389 番ポートを使用します。



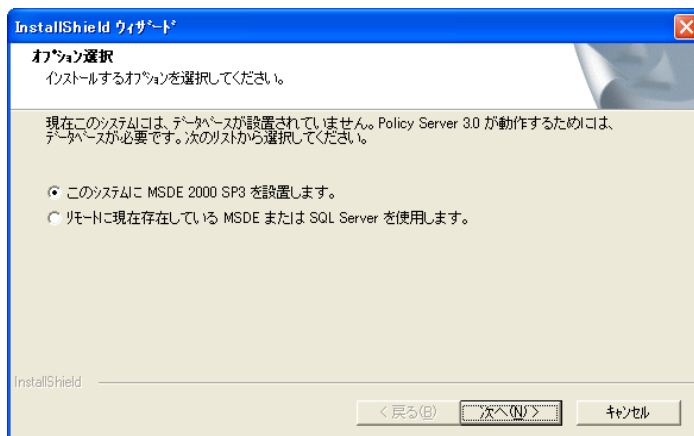
- ③ 入力したポートを他のサービスやプログラムが使用している場合、エラー メッセージが表示されます。
- ④ [次へ] をクリックするとインストールが実行され、OpenLDAP インストールが完了します。



## (6) MSDE インストール

### ①MSDE のインストール ウィンドウが表示されます。

MSDE や MS-SQL がインストールされている場合、このウィンドウは表示されません。表示されない場合には→ (7) へ



### ②注意!!! Policy Server が使用する DB はどちらですか？

新しい MSDE→(a)へ

設置済みの MS-SQL または MSDE→(b)へ

(a)メディアパック CD に入っている MSDE をインストールします。

①[このシステムに MSDE 2000 SP3 を設置します] をオンにします。

②MSDE インストールが実行されます。

(b)使用中の MS-SQL サーバーや他のシステムに設置された MSDE を使用します。

①[リモートに現在存在している MSDE または SQL Server を使用します] をオンにします。

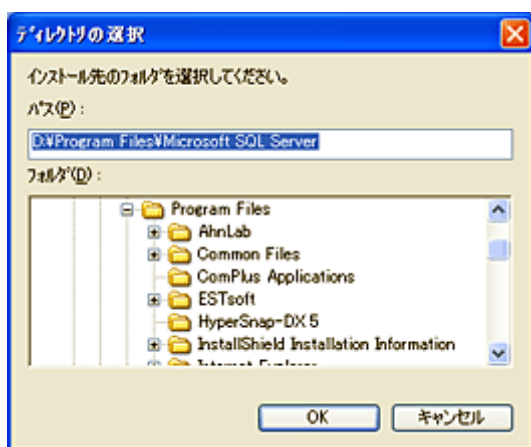
②MSDE はインストールされず、(7) に移動します。

③Policy Server で提供する MSDE 2000 SP3 をインストールした場合、MSDE 2000 SP3 をインストールするフォルダを選択します。

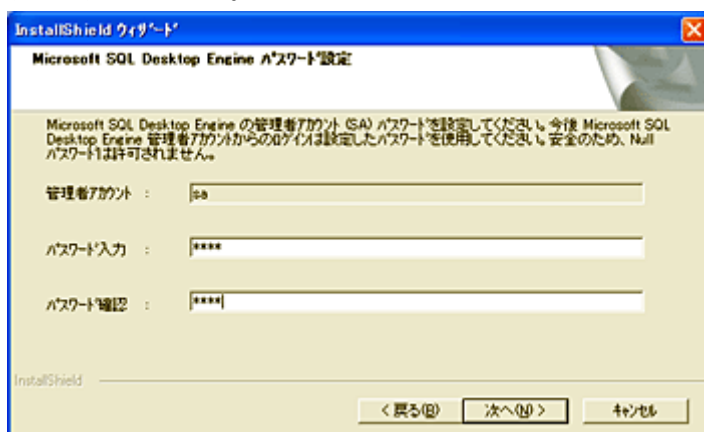


注意!!! MS SQL Server 2000 を使用する場合には、動作モードで“混合モード”が選択されている必要があります。

- ④[参照] をクリックすると表示されるダイアログ ボックスでインストール フォルダを指定してください。



- ⑤インストールする MSDE 2000 SP3 の管理者アカウント (SA) パスワードを設定します。パスワードは確認のため 2 回入力します。パスワード入力がない場合、次のステップへ進めません。

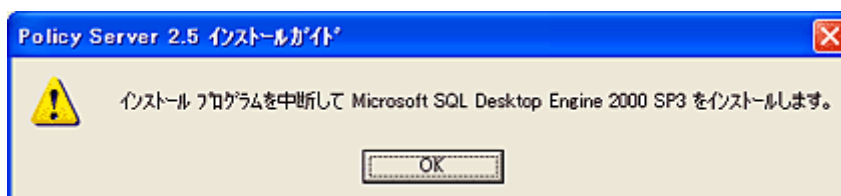


- ⑥[次へ] をクリックすると MSDE のインストール開始を知らせるダイアログ ボックスが表示されます。

[OK] をクリックすると MSDE インストールが実行されます。



**注意!!!** MSDE インストールが完了すると、システムが自動的に再起動されます。再起動前に必要なデータはあらかじめ保存しておいてください。



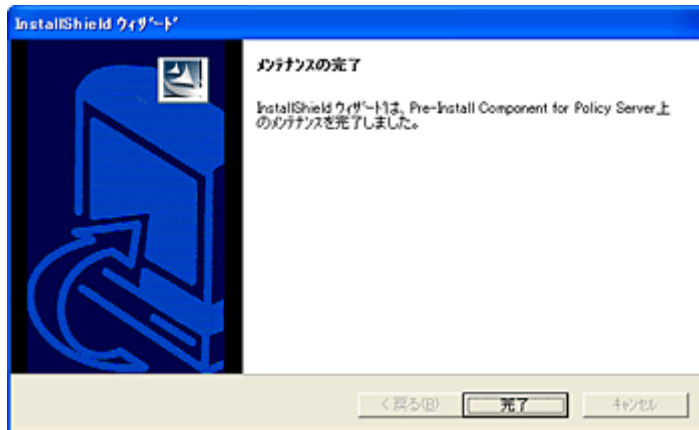
- ⑦MSDE インストール中にはインストール進行中のメッセージが表示されます。



⑧MSDE インストールが完了すると、システムが自動的に再起動されます。

**注意!!!** 再起動後にインストールが続行されます。メディアパック CD は CD ドライブに入れたままにしてください。

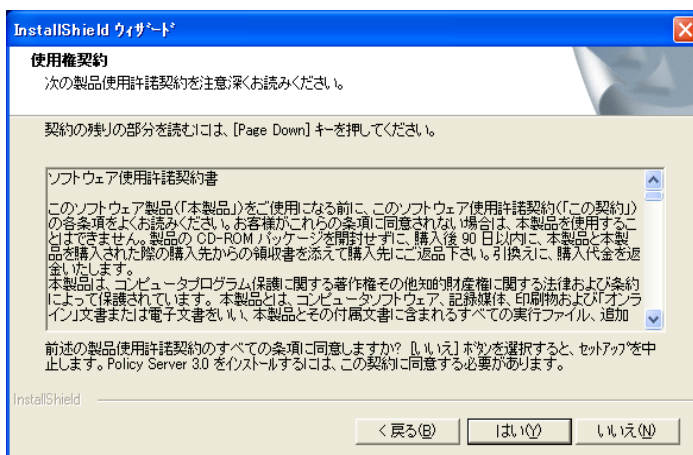
⑨Pre-Install Component のインストール確認後、完了ウィンドウが表示されます。  
[完了] をクリックしてください。



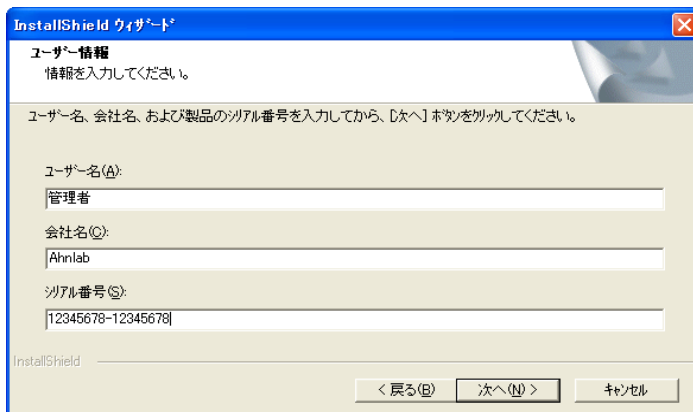
(7) Policy Server インストール ウィンドウが再び表示されます。[次へ] をクリックします。



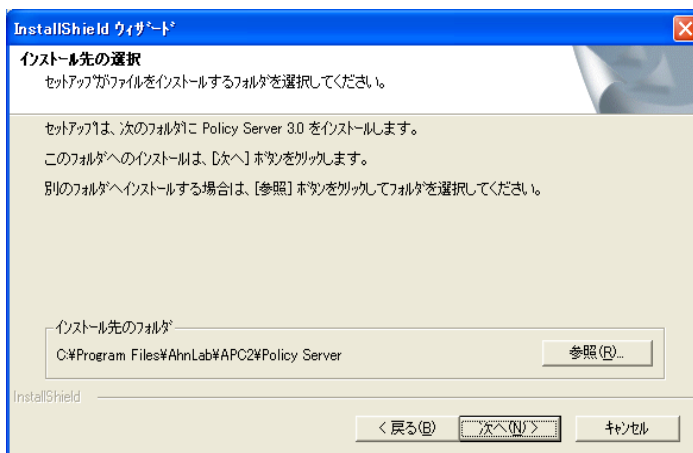
- (8) AhnLab Policy Server の使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の内容を確認し  
[はい] をクリックします。



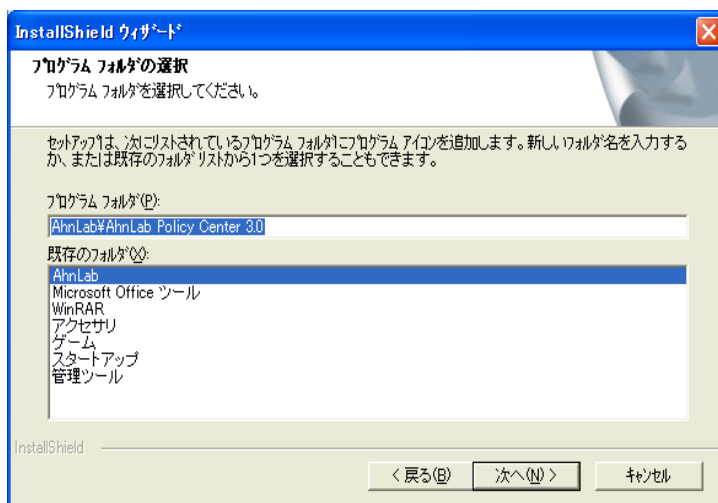
- (9) ユーザー情報および製品シリアル番号を入力し [次へ] をクリックします。



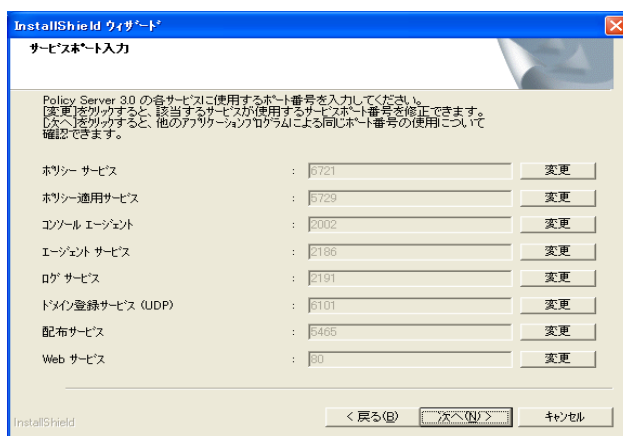
- (10) Policy Server のインストール フォルダを指定し [次へ] をクリックします。[参照] をクリックするとフォルダを変更できます。



- (11) プログラムのアイコンが追加されるフォルダを選択し [次へ] をクリックします。Windows の [スタート] - [プログラム] に表示されるフォルダです。

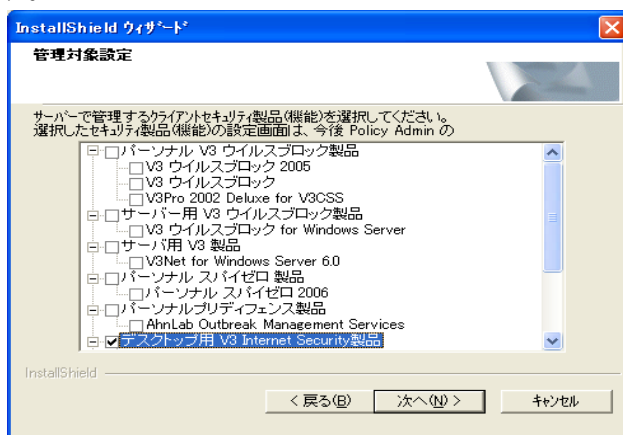


- (12) サービスポートを確認し [次へ] をクリックします。



Policy Server で使用するポートを他のアプリケーションが使っている場合警告が表示されますので、ポートを変更してください。

- (13) 管理対象製品を選択し [次へ] をクリックします。管理対象とする製品/機能をオンにします。管理対象製品は Policy Server インストール後にも Policy Center Admin から変更できます。

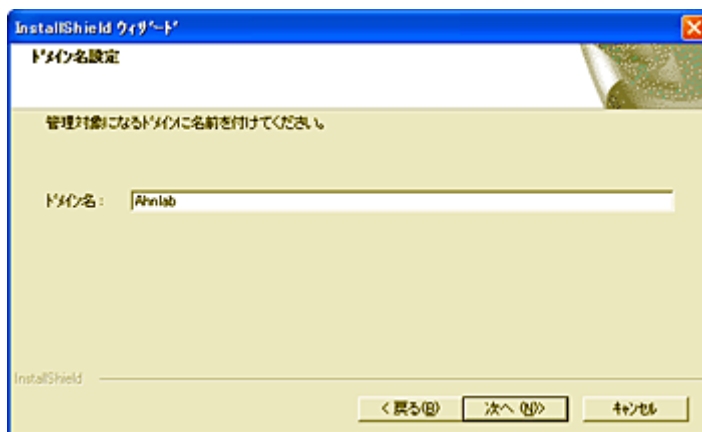


管理対象設定は Policy Server がポリシーを設定しコマンドを送信する製品を選択する機能です。V3 ウイルスブロックの場合、すべて選択できますが、現在ライセンスを持っているかライセンスを購入する予定の製品を選択します。



管理対象設定は V3 ウイルスブロック製品とデスクトップ用 V3 Internet Security 製品を同時に登録することができます。ただし、エージェント側にインストール時にはデスクトップ用 V3 Internet Security 製品が優先となります。

- (14) APCドメイン名を設定し [次へ] をクリックします。インストール中の Policy Server で管理する会社名や組織名にすると分かりやすいでしょう。



AhnLab Policy Center 3.0 では、1 台の Policy Server と Policy Server に登録されているグループおよび Policy Server の集合体を APCドメインと呼びます。ここでは、他の Policy Server と区別しやすい名前を付けてください。

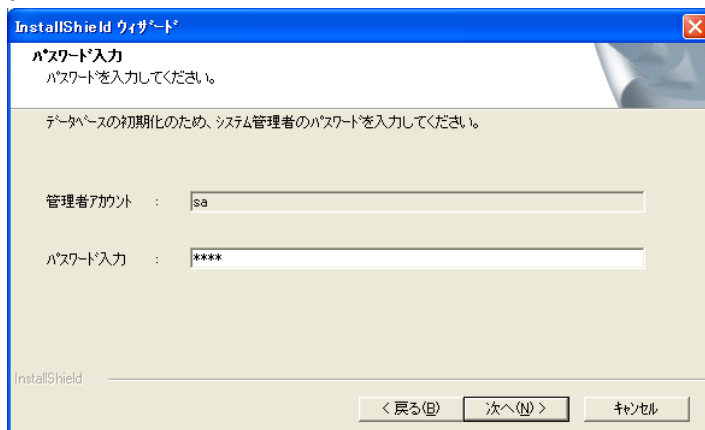
(15) データベース ホストおよびポート番号を入力し [次へ] をクリックします。



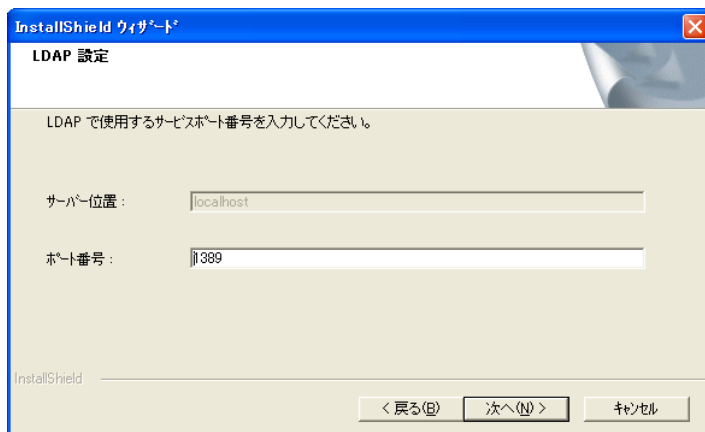
リモートシステムにある MSDE を Policy Server に接続して使用する場合、[ホスト] を MSDE がインストールされているリモートシステムの IP アドレスに変更します。次に使用例を示します。

|         | リモートシステムの MSDE 使用               |                        | リモートシステムのマルチインスタンスにインストールした MSDE 使用     |  |
|---------|---------------------------------|------------------------|---|--|
| コンピュータ名 | AhnLab                          |                        | AhnLab                                  |  |
| IP アドレス | 123.123.123.123                 |                        | 123.123.123.123                         |  |
| ポート     | 1433                            |                        | 1500                                    |  |
| インスタンス  | なし                              |                        | Sql2000                                 |  |
| 使用方法    | ホスト                             | コンピュータ名<br>または IP アドレス | ホスト                                     | コンピュータ名¥インスタンス名<br>または IP アドレス¥インスタンス名 |
|         | ポート                             | MSDE のポート              | ポート                                     | MSDE のポート                              |
| 使用例     | ホスト:ahnlab<br>ポート:1433          |                        | ホスト:ahnlab¥Sql2000<br>ポート:1500          |  |
|         | ホスト:123.123.123.123<br>ポート:1433 |                        | ホスト:123.123.123.123¥Sql2000<br>ポート:1500 |  |

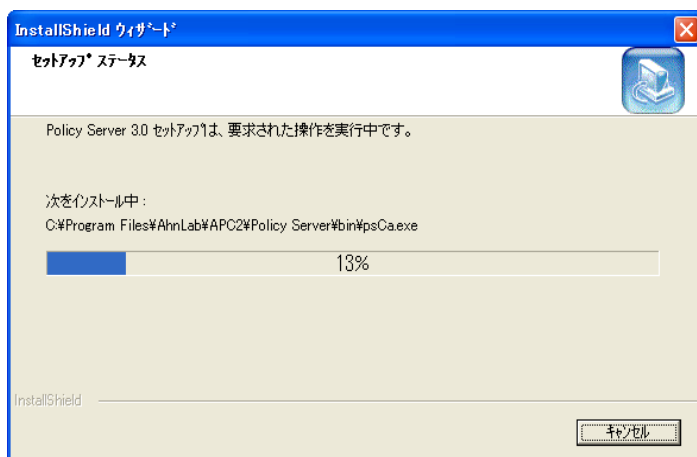
- (16) (2)-⑤で入力したパスワードを入力し [次へ] をクリックします。既存の MSDE や MS-SQL を使用する場合、そのデータベースの管理者パスワードを入力します。



- (17) OpenLDAP のサーバーの位置とポート番号を入力し [次へ] をクリックします。(5) で初期値を変更した場合は、その値を入力します。



- (18) [オプション選択] ウィンドウが表示される場合には適切なオプションを選択します。現在使用中の OpenLDAP とデータベースを使用する場合は、[はい] を、初期化する場合は [いいえ] を選択して [次へ] をクリックします。





- (19) [製品登録] ウィンドウが表示されますがここでは「閉じる」ボタンをクリックします。  
(Policy Server のインストール完了後、製品登録を行います。)



- (20) インストールが完了すると、完了ウィンドウが表示されます。[完了] をクリックしてシステムを再起動してください。



- (21) 再起動後、「スタート」→「プログラム」→「AhnLab」→「AhnLab Policy Center 3.0」→「製品登録ツール」を選択すると「製品登録」ウィンドウが表示されます。  
登録した製品は Policy Agent を通じてエージェント コンピュータに配布されます。最初に「スマートアップデートユーティリティ」を選択して「登録」をクリックします。



【管理対象設定】と【製品登録】の組み合わせによって配布製品および管理製品が決定されます。

AhnLab Policy Center 3.0 では、【管理対象設定】と【製品登録】で配布製品および管理対象を決定します。

【管理対象設定】：製品のポリシー（詳細設定）を AhnLab Policy Center 3.0 から設定できる製品を決める

【製品登録】：エージェントに配布/インストールする製品を決め、登録する

現在 V3 ウイルスブロックがクライアントにインストールされていると仮定して、組み合わせ例を次に示します。

| 管理対象設定（オン）              | 製品登録      | インストール関連動作   | ポリシー設定可能製品               |
|-------------------------|-----------|--|--------------------------|
| V3 2005                 | V3 2005   | 現在の V3 ウイルスブロックをすべて削除<br>V3 ウイルスブロック 2005 をすべてのエージェントにインストール | V3 ウイルスブロック 2005         |
| V3 Internet Security 製品 | V3 IS 8.0 | 現在の V3 製品を削除<br>V3 IS 8.0 をすべてのエージェントにインストール                 | V3 Internet Security 8.0 |

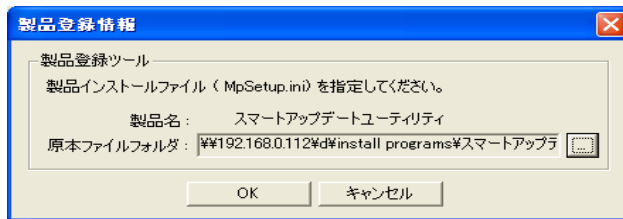
※製品登録は V3 ウイルスブロック 2005 か V3 Internet Security のどちらかしかできません



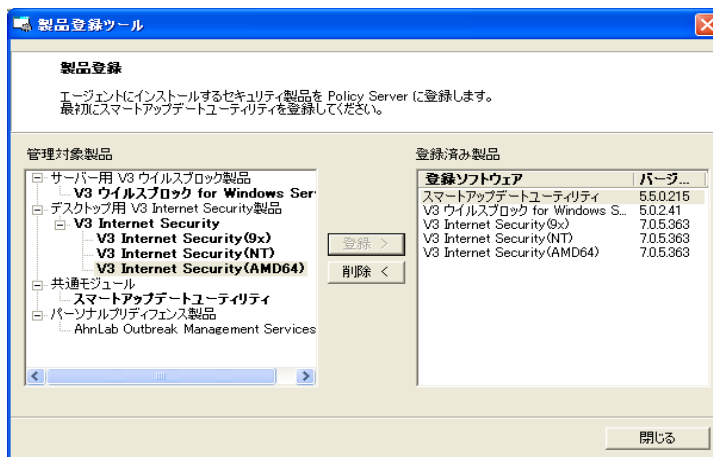
【管理対象設定】で【付加機能】のみを選択した場合、【製品登録】では何も選択せずに【OK】をクリックします。V3 IS 8.0 以外の製品を登録する場合には、スマートアップデートユーティリティを必ず先に登録してください。

(22) 【製品登録情報】で [...] をクリックし、CD #1 の「1\_Master/2\_Policy Server 登録用プログラム」フォルダからスマートアップデートユーティリティ フォルダの mpsetup.ini ファイ

ルを指定し [OK] をクリックします。[登録済み製品] にスマートアップデートユーティリティが追加されます。



(23) 同じ要領で登録する製品を追加し、すべて追加したら [OK] をクリックします。スマートアップデートユーティリティは必ず登録してください。



登録製品はインストール後にも Policy Server をインストールしたシステムの [スタート]-[AhnLab]-[AhnLab Policy Center 3.0]-[製品登録ツール] から変更できます。



AhnLab Policy Center 3.0 を通じて登録製品の配布時にネットワークに負荷がかかることが予想される場合、メディアバック CD #1 の/1\_Master/3\_ローカルインストール用フォルダから製品をインストールしても Policy Server から管理できます。この場合、製品登録は行わず [OK] をクリックしてダイアログ ボックスを終了してください。



V3 製品群は 1 つしか登録できません。また、V3 Internet Security 8.0 を登録する場合は NT 系、64Bit を一つずつ登録する必要があります。

### 4.3 Policy Server アンインストール



Policy Server を削除する前に、OpenLDAP および MSDE などの必要なデータをバックアップしてください。

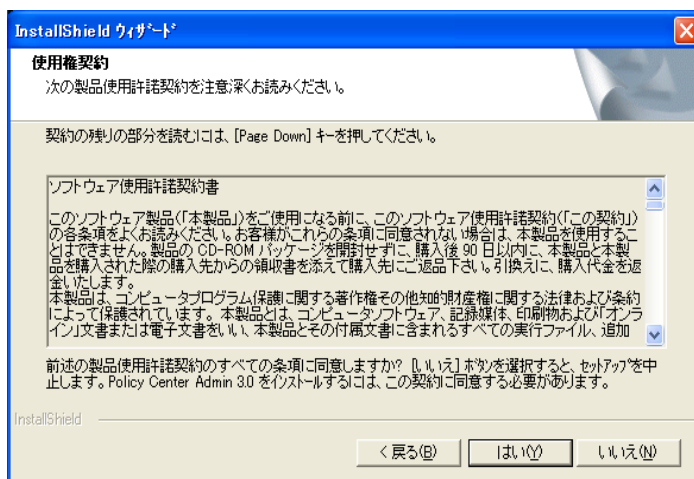
- (1) Policy Server のアンインストールは [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] から実行するか、[スタート]-[プログラム]-[AhnLab]-[AhnLab Policy Center 3.0]-[Policy Server 3.0 削除] を選択して実行します。
- (2) 削除を確認する [OK] ボタンをクリックするとアンインストールが実行されます。
- (3) 削除完了のダイアログ ボックスで [はい、今すぐコンピュータを再起動します] オプションを選択し [完了] をクリックするとシステムが再起動します（コンピュータによっては再起動の必要がない場合もあります）。
- (4) [Pre-Install Component for Policy Server] および各データベースも [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] から適宜削除を実行します。

## 4.4 Policy Center Admin インストール

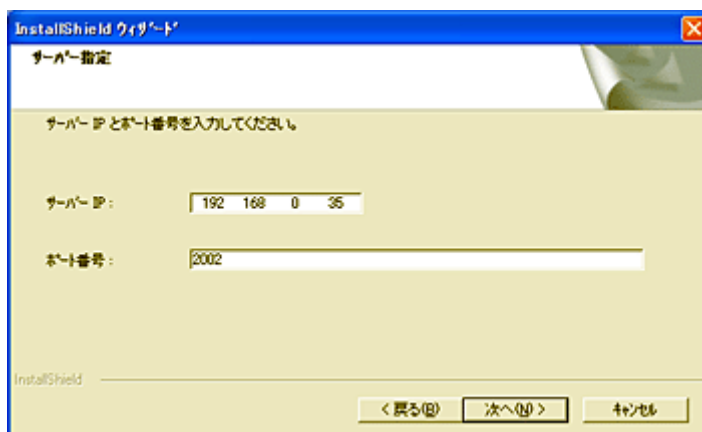
- (1) CD #1 の「/1\_Master/1\_APC/Policy Center Admin」を選択し Setup.exe を実行します。



- (2) 使用許諾契約の内容を確認し [はい] をクリックします。



- (3) Policy Center Admin が使用する基本サーバーの IP とポートを入力し [次へ] をクリックします。





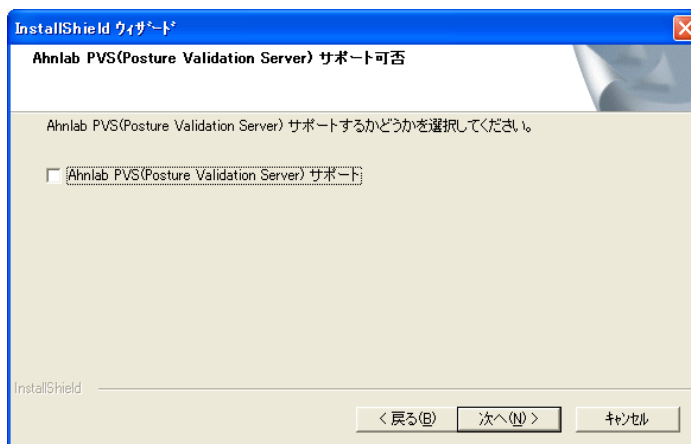
サーバーIP は Policy Server の実際の IP アドレスを入力します。Policy Server と Policy Center Admin が同じシステムにインストールされている場合でも、127.0.0.1 では認識されませんので注意が必要です。



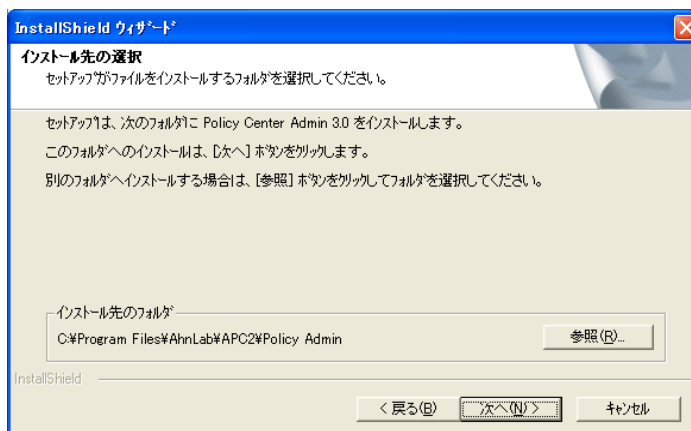
他のアプリケーションが 2002 番ポートを使用している場合には変更します。ここで Policy Center Admin の通信ポートを変更した場合、Policy Server インストールの [コンソール エージェント] と同じポートを入力しなければなりません。

(3-1) APC 3.0 では NAC 連動の画面が表示されますが、CISCO の NAC と連動しない場合はそのまま [次へ] をクリックします。

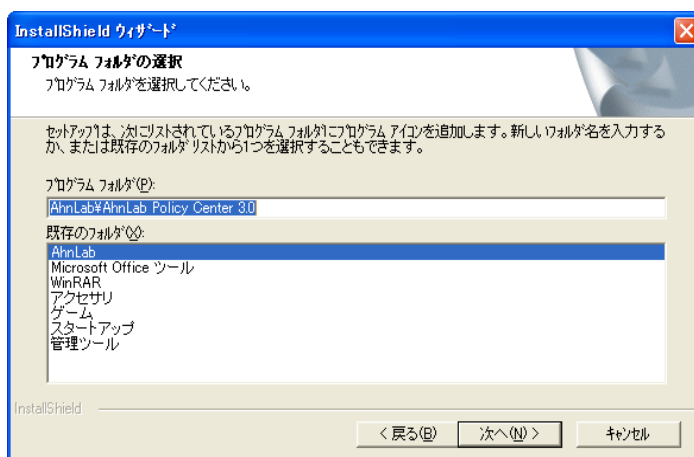
※ 現在はサポートしませんのでチェックしないまま「次へ」をクリックしてください。



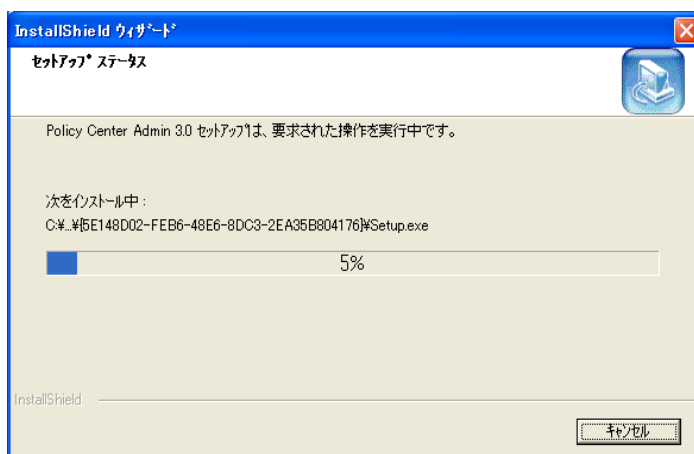
(4) Policy Center Admin のインストール フォルダを指定し [次へ] をクリックします。[参照] をクリックするとフォルダを変更できます。



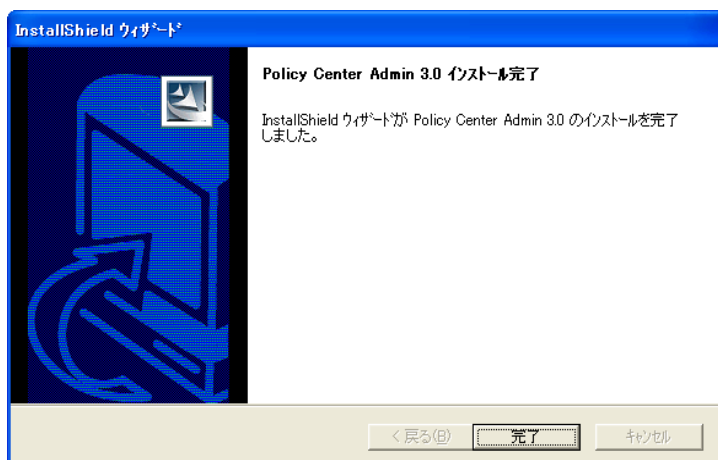
- (5) プログラムのアイコンが追加されるフォルダを選択し [次へ] をクリックします。Windows の [スタート]-[プログラム] に表示されるフォルダです。



- (6) プログラム フォルダを選択し [次へ] をクリックするとインストールが実行されます。



- (7) インストールが完了すると、完了ウィンドウが表示されます。





APC3.0 SP1 以降のバージョンではクライアント向け製品に製品番号が登録されていません。各クライアントに Policy Agent およびクライアント向け製品をインストールする前に製品番号の登録を行ってください。( [4.6.1 製品番号登録手順をご参考ください。](#) )

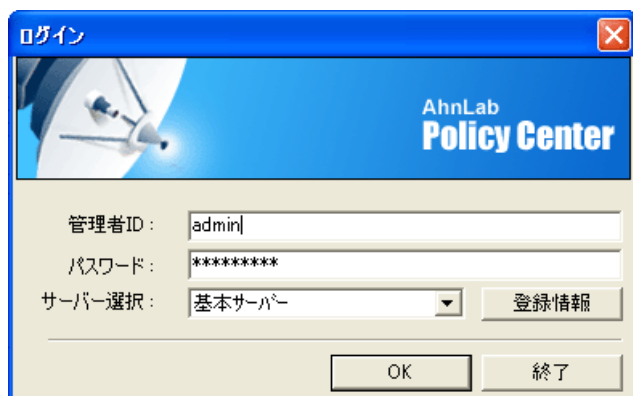


## 4.5 Policy Center Admin アンインストール

- (1) Policy Center Admin のアンインストールは [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] から実行するか、[スタート]-[プログラム]-[AhnLab]-[AhnLab Policy Center 3.0]-[AhnLab Policy Admin 3.0 削除] を選択して実行します。
- (2) 削除を確認する [OK] ボタンをクリックするとアンインストールが実行されます。
- (3) 削除完了後コンピュータの再起動は要りません。

## 4.6 Policy Center Admin ログイン

- (1) [スタート]-[プログラム]-[AhnLab]-[AhnLab Policy Center 3.0]-[Policy Center Admin 3.0] をクリックすると、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。



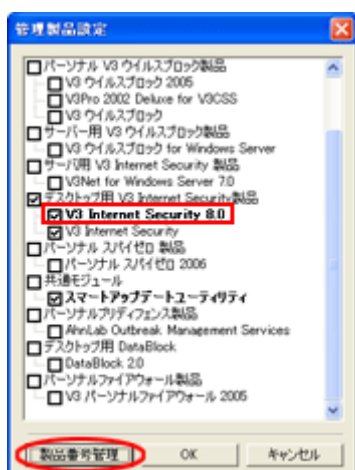
- (2) [管理者 ID] に「admin」、パスワードに「p@ssadmin」を入力し、[OK] をクリックします。

### 4.6.1 製品番号登録手順

- (1) メインメニューの [ドメイン管理] をクリックします。
- (2) [APC ドメインポリシー] タブを選択して、[管理対象製品設定] アイコンをダブルクリックします。



- (3) [管理対象製品設定] ダイアログ ボックスで製品番号を選択し、「製品番号管理」をクリックします。



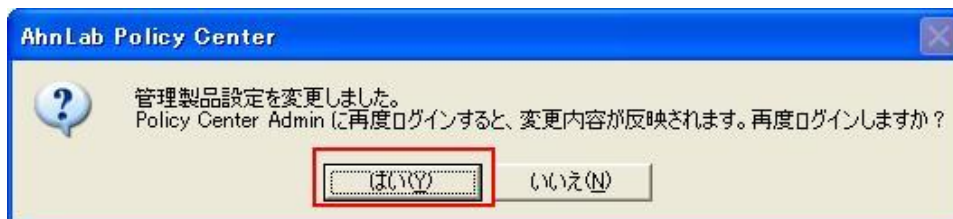
- (4) 製品番号管理にて「[製品名] 製品番号一括適用」にチェックをいれ、必要事項を入力して [OK] をクリックします。



- (5) 次のようなメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。



- (6) 設定変更内容は再度ログインしないと反映されません。Policy Center Admin に再度ログインしてください。



- (7) 再ログインすると、各クライアントの製品にシリアルが適用されます。

## 4.7 Policy Agent の作成と配布

Policy Agent の作成と配布には、3 つの方法があります。

各方法の特徴と必要環境は次の通りです。

|      | 特徴  | 環境   |
|------|---|--|
| 一般   | *簡単   | *同一ネットワーク内でのみ可能<br>*クライアントが Windows 9X 系の場合適合  |
| プッシュ | *クライアントが Policy Agent ファイルをインストールする必要なし<br>*ドメイン参加クライアントの場合ドメインサーバーの ID+パスワード<br>*ワークグループ参加クライアントの場合クライアント コンピュータの ID とパスワード<br>*NT4.0(SP6)、Win 2000 Pro/Server、Win XP Pro のみ可能 | *同一ネットワーク内でのみ可能<br>*クライアントが Windows 2000 以上の場合に適合<br>*ワークグループに所属している Windows XP の場合別途設定が必要 |
| リレー  | *リレーエージェントとリレーサーバーの同時使用<br>*上記リレー機能でコマンド+ファイル配布のネットワーク負荷軽減<br>*NAT 環境で使用可能  | *エージェントが NAT 環境内にある場合適合  |

(リレーの詳細は「リファレンスガイド」の「ポリシー管理用語」を参照)

#### 4.7.1 一般的な方法

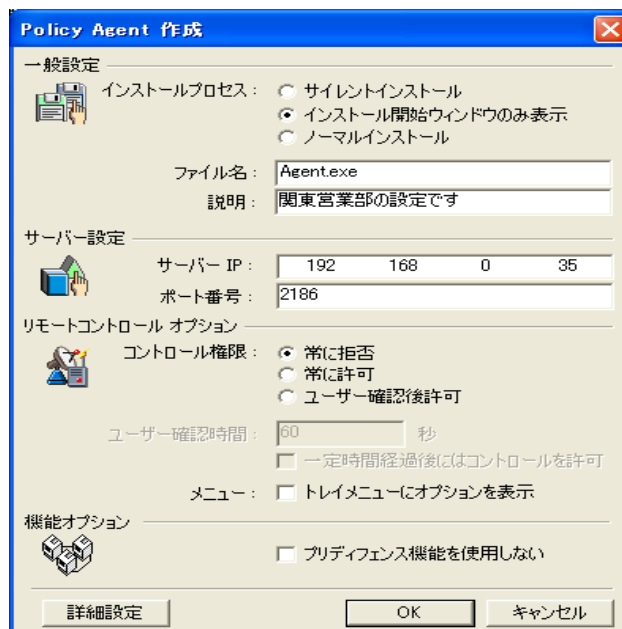
Policy Center Admin から Policy Agent を作成し、Web サービスページからインストールします。

##### (1) Policy Agent 作成 (一般)

- ① 中村さんが属する“関東営業部”を選択します。
- ② “関東営業部”を右クリックし、[Policy Agent 作成] をクリックします。



- ③ [Policy Agent 作成] ウィンドウで必要事項を入力します。



④[OK] をクリックします。

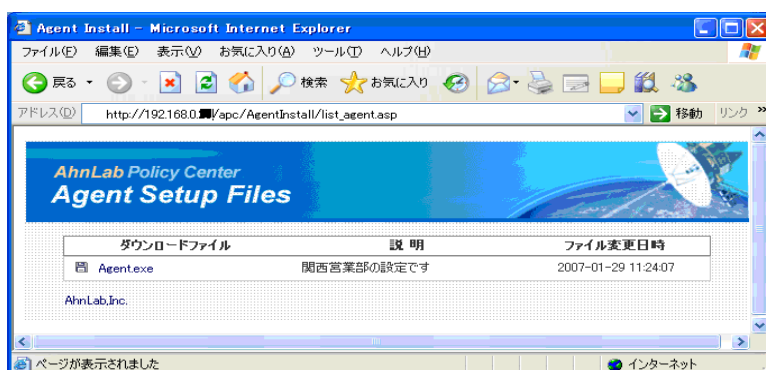


⑤Internet Explorer を起動して Web サービスページを表示し、[関東営業部] Policy Agent ファイルがアップロードされている事を確認します。

(2)Policy Agent 配布 (Web サービスページからダウンロード)

①中村さんのコンピュータで Internet Explorer を実行します。

②サーバー管理者から通知された Policy Server アドレスを入力します  
(例:http://123.123.123.123/)。



③“関東営業部”Policy Agent を選択しダウンロードします。

④ダウンロードしたファイルをダブルクリックすると、Policy Agent のインストールが実行されます。

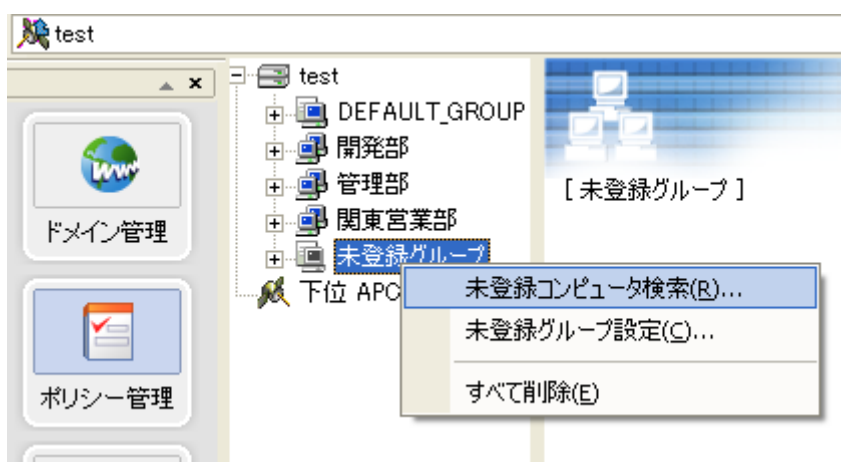
⑤Policy Agent ファイルのインストール後、Policy Agentトレイ アイコンをクリックしてユーザー情報を入力するように通知しておきます。

## 4.7.2 プッシュインストール

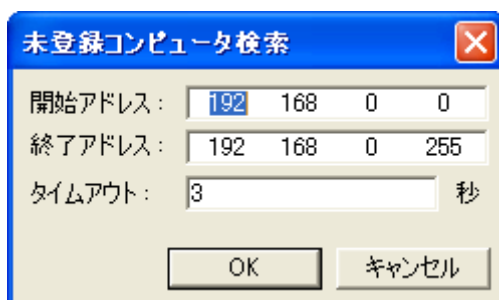
Policy Center Admin から Policy Agent を作成し、Policy Center Admin から管理者がエージェントコンピュータに Policy Agent ファイルをプッシュインストールします。

Windows NT 系 OS がインストールされているコンピュータには、プッシュインストールが可能です。NT ドメインに登録しているシステムにプッシュインストールをする場合、NT ドメイン Administrator の ID とパスワードが必要です。ワークグループの場合はインストールするシステムの Administrator の ID とパスワードを入力します。

- ①メインメニューの「ポリシー管理」を選択します。
- ②グループ ウィンドウの“未登録グループ”を右クリックし、[未登録コンピュータ検索] を選択します。



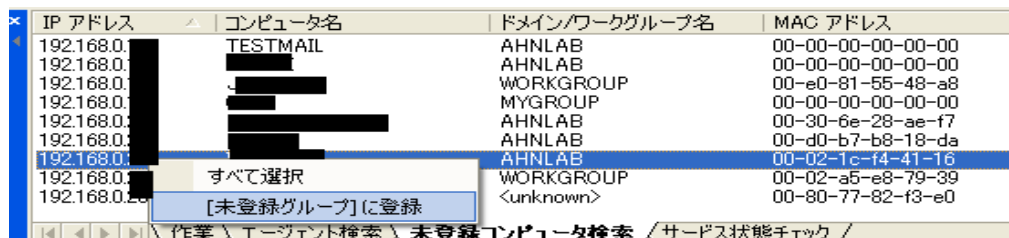
- ③プッシュインストールするシステムの IP アドレスの範囲を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



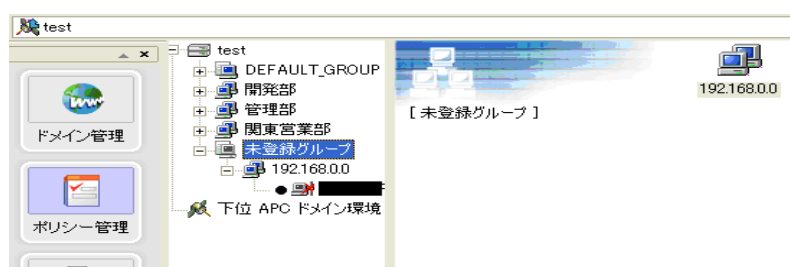
- ④入力した IP 範囲の中で APC エージェントがインストールされていない未登録コンピュータが [未登録コンピュータ検索] に表示されます。

| IP アドレス      | コンピュータ名  | ドメイン/ワークグループ名 | MAC アドレス          |
|--------------|----------|---------------|-------------------|
| 192.168.0.1  | APC-001  | AHNLAB        | 00-10-dc-d1-e8-5b |
| 192.168.0.2  | APC-002  | WORKGROUP     | 00-40-89-06-15-8a |
| 192.168.0.3  | APC-003  | AHNLAB        | 00-08-02-1c-a3-b3 |
| 192.168.0.4  | APC-004  | WORKGROUP     | 00-40-ca-29-39-44 |
| 192.168.0.5  | APC-005  | AHNLAB        | 00-15-60-5c-16-16 |
| 192.168.0.6  | TESTMAIL | AHNLAB        | 00-00-00-00-00-00 |
| 192.168.0.7  | APC-006  | AHNLAB        | 00-00-00-00-00-00 |
| 192.168.0.8  | APC-007  | WORKGROUP     | 00-e0-81-55-48-a8 |
| 192.168.0.9  | APC-008  | MYGROUP       | 00-00-00-00-00-00 |
| 192.168.0.10 | APC-009  | AHNLAB        | 00-30-6e-28-ae-f7 |

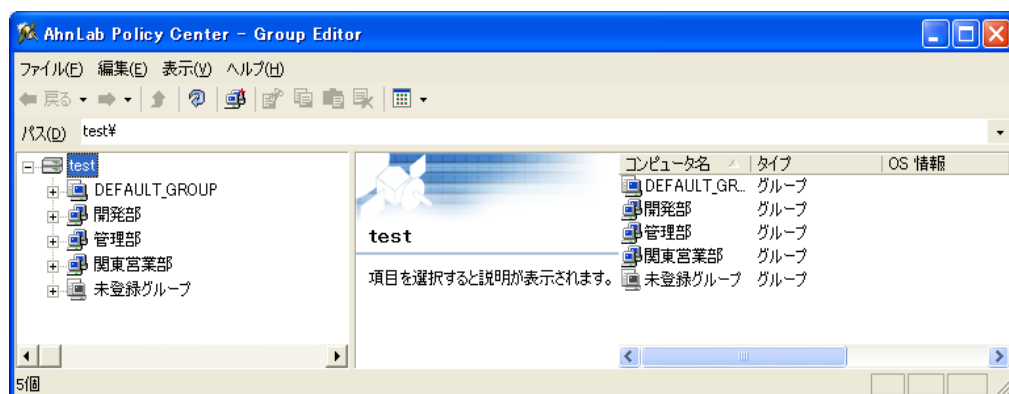
- ⑤[管理除外対象コンピュータ検索] から管理対象にするコンピュータを選択します。右クリックで[全体選択] または[選択登録] を選択しグループ ウィンドウの“未登録グループ”で管理できるようにします。



- ⑥“未登録グループ”に登録されたことを確認します。



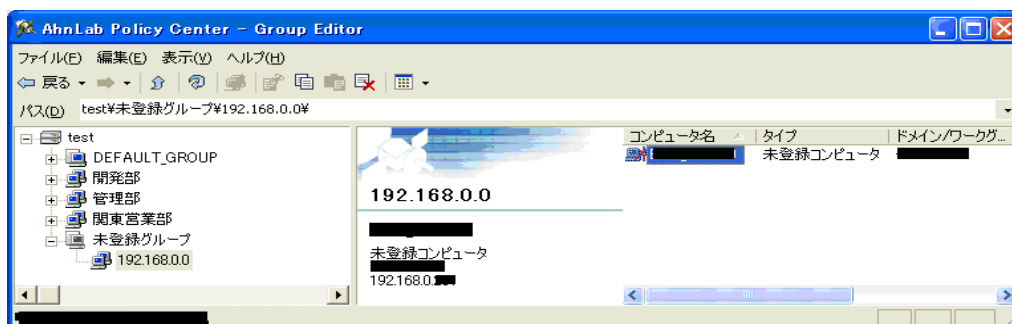
- ⑦ Policy Center Admin を終了します。
- ⑧ [スタート]-[プログラム]-[AhnLab]-[AhnLab Policy Center 3.0]-[Group Editor] をクリックします。
- ログオンすると Group Editor が立ち上がります。



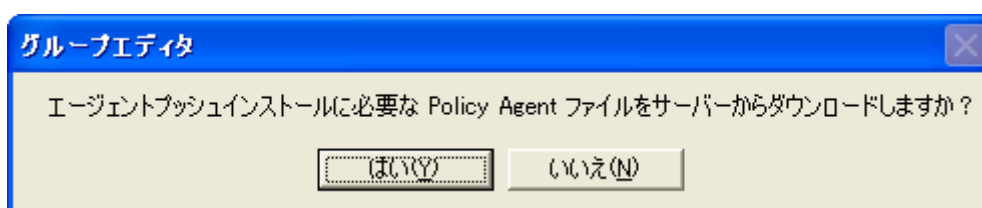
- ⑨[ファイル]-[プッシュインストールオプション設定] をクリックします。
- ⑩[エージェントプッシュインストール オプション設定] ウィンドウで必要事項を入力し、[OK] をクリックします。



- ⑪グループ ウィンドウから“未登録グループ”を選択しプッシュインストール対象のコンピュータを選択します。



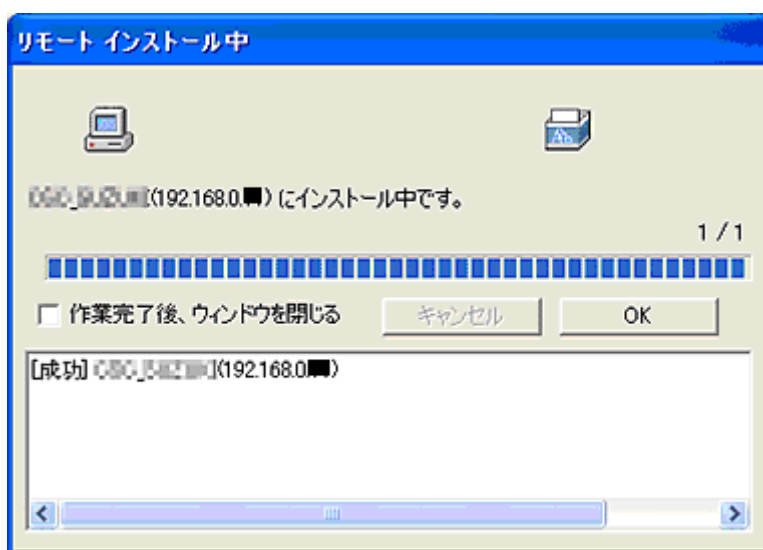
- ⑫選択したコンピュータをグループ ウィンドウの登録したいグループにドラッグ アンド ドロップで移動させます。



- ⑬[はい] をクリックすると Policy Agent ファイルのダウンロードが始まります。
- ⑭該当システムが NT ドメインに登録されている場合、NT ドメインの Administrator 情報を入力します。NT ドメインに登録されていない場合には、該当システムの Administrator 情報を入力します。



⑮プッシュインストールが実行されます。フィールドに表示される結果を確認してください。

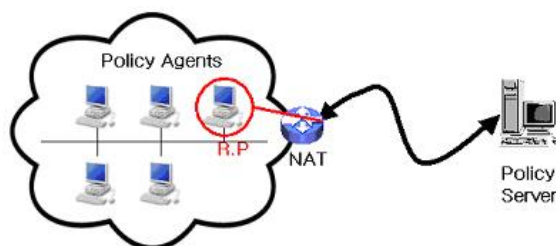


⑯Policy Agent ファイルのインストール後、Policy Agentトレイ アイコンをクリックしてユーザー情報を入力するように通知しておきます。

### 4.7.3 NAT 環境の Policy Agent 作成と配布

Policy Server とエージェントが別のネットワーク環境にある場合に Policy Server とエージェントが通信できるよう Policy Agent を作成します。Policy Server とエージェント間に NAT が設置されている場合、Policy Agent 作成時に正確に IP アドレスを入力する必要があります。

#### ◆ エージェントが NAT 環境内に存在する場合



Policy Server はグローバル IP、エージェントは NAT 環境にある場合の設定です。Policy Server とエージェントの直接通信ができないため、NAT 内部のプライベート IP と NAT のグローバル IP でマッピングされた IP を同時に持っている「リレーエージェント」と呼ばれるエージェントを通じて通信を可能にします。

#### (1) Policy Agent 作成

- ① エージェントが属する予定のグループを選択します。
- ② グループを右クリックし、[Policy Agent 作成] をクリックします。
- ③ [Policy Agent 作成]-[詳細設定] で、[エージェントが NAT 環境内に存在] をオンにし、その他必要事項を入力します。次は NAT 環境関連の設定項目です。

**リレーエージェントプライベート IP:**

リレーエージェントのシステムに設定されているプライベート IP

**リレーエージェントグローバル IP:**

リレーエージェントのあるネットワークの WAN 側の IP アドレス

- ④ [OK] をクリックし、Agent Policy を作成します。
- ⑤ 次のポートをそれぞれのルータにポートマッピングします。

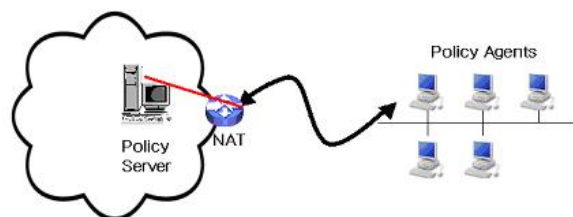
**リレーエージェント側ルータ**

TCP 6063

#### (2) Policy Agent 配布 (Web サービスページからダウンロード)

前述の「一般」の「Policy Agent 配布」を参照してください。Policy Server 側ではリレーエージェントが該当グループの中に表示されているかどうかを確認してください。しばらく時間を置いて [更新] ボタンをクリックしても表示されない場合は、ポートマッピングの設定が誤っている可能性があります。Policy Agent ファイルのインストール後、Policy Agent トレイ アイコンをクリックしてユーザー情報を入力するように通知しておきます。

#### ◆ Policy Server が NAT 環境内に存在する場合



Policy Agent はグローバル IP、Policy Server は NAT 環境にある場合の設定です。  
Policy Server とエージェントが通信するには、エージェントが Policy Server のグローバル IP アドレスを持っている必要があるため、NAT 内部のプライベート IP と NAT のグローバル IP でマッピングされた IP を設定し通信ができるよう設定します。

##### (1) Policy Agent 作成

- ①エージェントが属する予定のグループを選択します。
- ②グループを右クリックし、[Policy Agent 作成] をクリックします。
- ③[Policy Agent 作成]-[詳細設定] で、[サーバーが NAT 環境内に存在] をオンにし、その他必要事項を入力します。次は NAT 環境関連の設定項目です。

**サーバーのプライベート IP:**

Policy Server のシステムに設定されているプライベート IP

**サーバーのグローバル IP:**

Policy Server のあるネットワークの WAN 側の IP アドレス

- ④[OK] をクリックし、Agent Policy を作成します。
- ⑤次のポートをそれぞれのルータにポートマッピングします。

**Policy Server 側ルータ**

TCP 2186、80、5465、2002

UDP 2191

##### (2) Policy Agent 配布 (Web サービスページからダウンロード)

前述の「一般」の「Policy Agent 配布」を参照してください。Policy Server 側ではリレーエージェントが該当グループの中に表示されているかどうかを確認してください。しばらく時間を置いて [更新] ボタンをクリックしても表示されない場合は、ポートマッピングの設定が誤っている可能性がありますので、確認してください。

## 4.8 Policy Agent インストール/製品インストール





中村さんが Policy Agent をインストールすると、しばらくして自動的に製品のインストールが実行されます (システムによっては Policy Agent のインストール終了後 1 分 ~ 1 時間ほどかかることがあります)。再起動メッセージが表示される場合は、システムを再起動してください。

## 4.9 Policy Agent アンインストール

- (1) 管理者は、Policy Center Admin のメインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- (2) グループ ウィンドウから“中村”アイコンをクリックします。
- (3) メイン ウィンドウから [エージェントポリシー] タブをクリックし、[Policy Agent] アイコンを右クリックして [変更] (または作成) をクリックします。
- (4) ウィンドウ上部のメニューから [エージェント動作設定] をクリックします。
- (5) [エージェントの削除オプション] を [パスワード入力時に許可] に設定し、[ポリシー適用] ボタンをクリックします。
- (6) Policy Center Admin のメインメニューから [APCドメイン管理] をクリックします。
- (7) メイン ウィンドウから [APCドメインポリシー] タブをクリックし、[エージェントパスワード設定] をダブルクリックします。
- (8) Policy Agent 削除時に設定したいパスワードを2度入力し、[OK] をクリックします。管理者が Policy Center Admin から行う設定はここまでです。
- (9) エージェントの中村さんは、自分のエージェント コンピュータで [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] から [Policy Agent] を削除選択します。
- (10) [パスワード] ダイアログ ボックスに管理者から通知されたパスワードを入力し [確認] をクリックします。Policy Agent の削除が実行されます。
- (11) 手順 (5) で [エージェントの削除オプション] を [常に許可] に設定した場合、中村さんは自分のコンピュータの [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] からアンインストールできます。
- (12) 手順 (5) で [エージェントの削除オプション] を [常に拒否] に設定した場合、中村さんは Policy Agent をアンインストールできません。アンインストールが必要になった場合には管理者にポリシー設定変更を申し出ます。管理者は、Policy Center Admin から [エージェントの削除オプション] を変更し、中村さんに通知します。

## 4.10 リレーサーバーの使用

### リレーサーバー登録

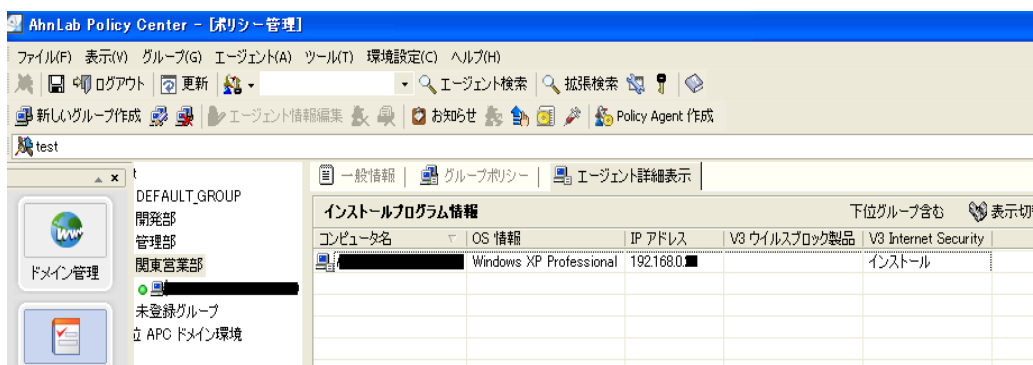
- ①グループ ウィンドウからリレーサーバー設定をするエージェントを右クリックします。リレーサーバーのインストール/登録は NT 系の OS がインストールされているエージェントのみ可能です。
- ②ショートカットメニューから [リレーサーバーインストール] をクリックします。作業ログ ウィンドウからリレーサーバーのインストールコマンドが送信されたことを確認し、該当エージェントのアイコンが  から  へ変わっていることを確認します。
- ③グループ ウィンドウからリレーサーバー設定をしたいグループを選択し、右クリックします。
- ④ショートカットメニューから [リレーサーバー登録] をクリックします。
- ⑤[リレーサーバー登録] リストから、このグループのリレーサーバーとして指定したいリレーサーバーを選択し [OK] をクリックします。
- ⑥指定確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。
- ⑦グループ ウィンドウで指定したグループのアイコンが  から  へ変わっていることを確認します。
- ⑧最初に登録したリレーサーバーはメインリレーサーバーとなり、該当グループが普段ファイルをダウンロードするリレーサーバーとして機能します。
- ⑨2 番目に登録したリレーサーバーはサブリレーサーバーとなり、メインリレーサーバーが何らかの理由で機能しない場合、自動的にサブリレーサーバーよりダウンロードが実行されます。

## 4.11 管理

### 4.11.1 Policy Agent インストール後の確認

#### (a) グループ別エージェントインストール状況の確認

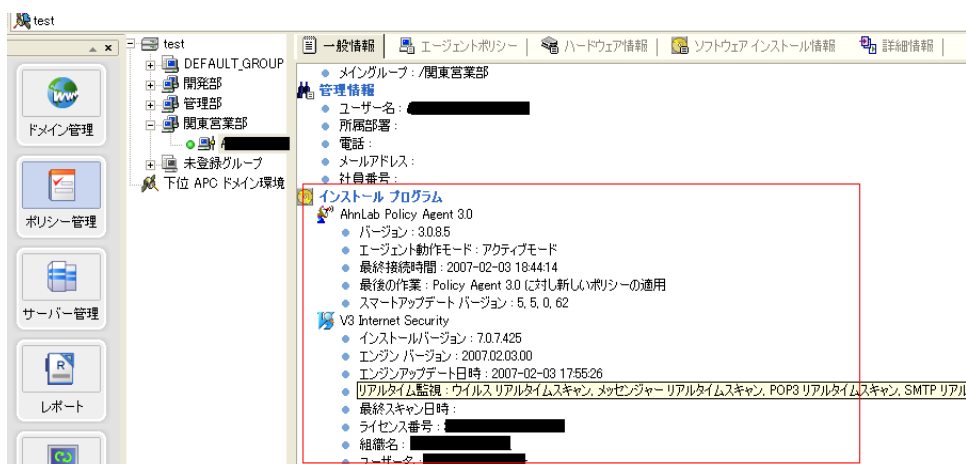
[ポリシー管理] ウィンドウのグループ ウィンドウに中村さんのエージェントがインストールされ、通信が始まるとエージェントが緑で表示されます。また、該当グループを選択すると [エージェント詳細表示] タブからエージェントのインストール状況を詳しく確認できます。



(エージェントの詳細表示については「リファレンスガイド」の「エージェント詳細情報」を参照)

#### (b) 中村さんの各製品のインストール状況確認

中村さんのエージェントを選択し、[一般情報] または [ソフトウェア インストール情報] で確認できます。

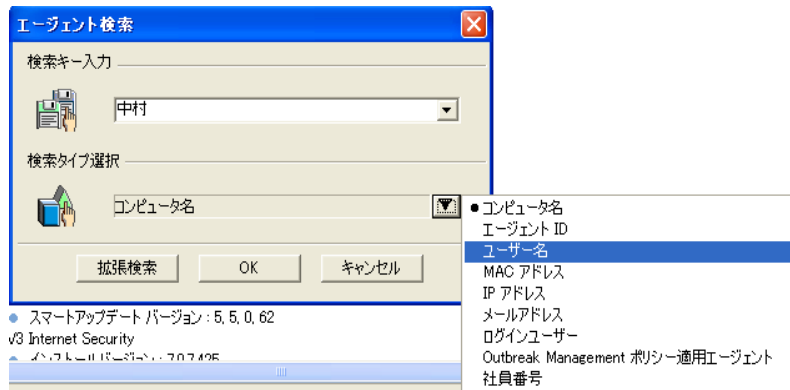


<[一般情報] から V3 Internet Security 製品インストール状況確認>

## ◆ エージェント検索

エージェントの数が多い場合、エージェントの検索が難しくなります。このような時には、[エージェント検索] 機能を使用します。例として、関東営業部所属の中村さんのエージェントを検索します。

- ①メニューバーから [エージェント]-[エージェント検索] を選択します。
- ②[検索キー入力] フィールドに“中村”と入力します。
- ③[検索タイプ選択] で [ユーザー名] を選択し、[OK] をクリックします。



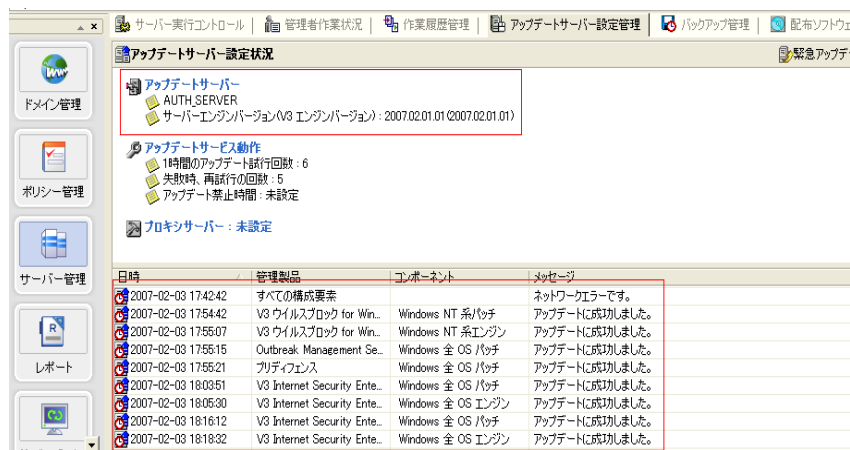
検索に成功した場合、関東営業部に属している“中村”というエージェントが自動的にグループ ウィンドウで選択されます。

## 4.11.2 ルーティン管理

### ◆ エンジンアップデート確認

(a) Policy Server の V3 ウイルスブロックのエンジンアップデート状態確認

- ①メインメニューから [サーバー管理] を選択します。
- ②[サーバー管理] ウィンドウの [アップデートサーバー設定管理] を選択します。
- ③エンジンバージョンおよびログを確認します。



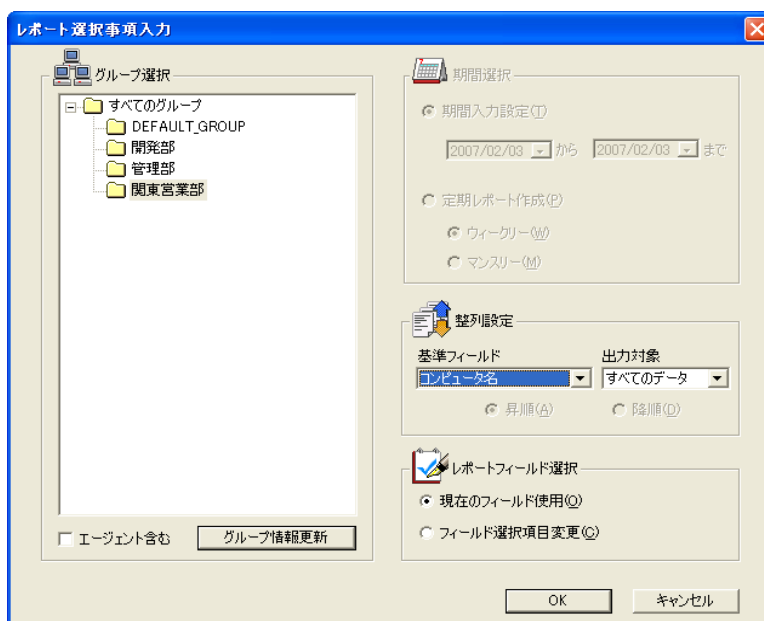


(b) 関東営業部のエージェントで V3 Internet Security のエンジンアップデート状態確認

- ①メインメニューの「ポリシー管理」を選択します。
- ②“関東営業部”を選択します。
- ③「ポリシー管理」ウィンドウの「エージェント詳細表示」タブを選択します。
- ④「エージェント詳細表示」ウィンドウの右上部にある「表示切替」ボタンをクリックし、  
「V3 IS/V3Net7.0 インストールおよび状態」を選択します。
- ⑤“関東営業部”に属しているエージェントの V3 Internet Security エンジンアップデート状態を確認できます。

#### ◆ V3 製品がインストールされていないシステム確認

- ①メインメニューから「レポート」を選択します。
- ②レポート ウィンドウから“一般レポート”の“エージェント一般情報”から“エージェント別 V3IS/V3Net7.0 インストール情報”をクリックします。
- ③“エージェント別 V3IS/V3Net7.0 インストール情報”ウィンドウの右上部にある「レポート作成」ボタンをクリックします。



- ④「レポート選択事項入力」ダイアログ ボックスで“関東営業部”を選択し、必要事項を選択後「OK」をクリックします。
- ⑤“関東営業部”に属しているエージェント別の V3 インストール情報を詳しく確認できます。



同様の方法でスパイゼロ製品、DataBlock2.0 がインストールされていないエージェントも確認できます。

#### ◆ ポリシー適用状態確認

- ①メインメニューから [レポート] を選択します。
- ②レポート ウィンドウから “一般レポート” の “エージェント一般情報” から “エージェントポリシー適用状態レポート” をクリックします。
- ③ “エージェントポリシー適用状態レポート” ウィンドウの右上部にある [レポート作成] ボタンをクリックします。
- ④ [レポート選択事項入力] ダイアログ ボックスで “関東営業部” を選択し、必要事項を選択後 [OK] をクリックします。
- ⑤ “関東営業部” に属しているエージェントのポリシー適用状態を確認できます。

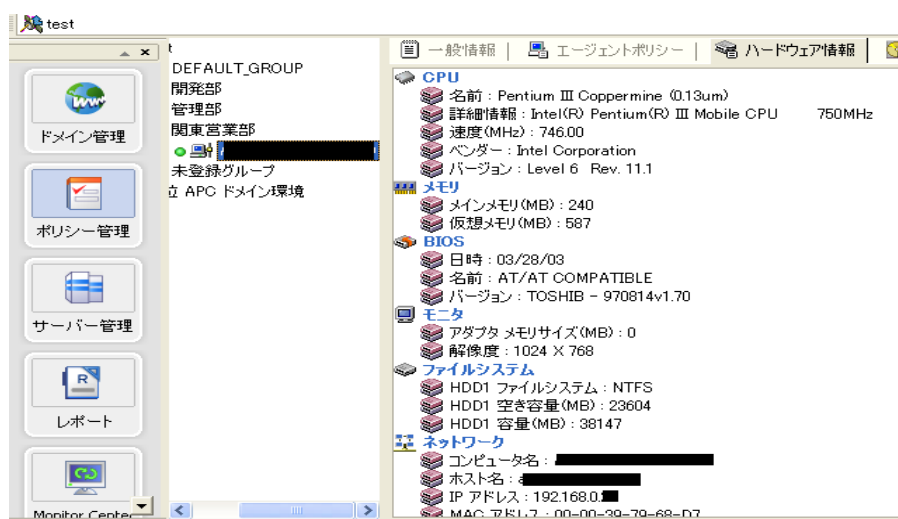
### 4.11.3 さまざまな管理方法

#### ◆ 資産管理

##### ■ エージェントがインストールされたシステムのハードウェア情報表示

###### (a) [ポリシー管理] でエージェント別のハードウェア情報確認

- ①メインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- ②グループ ウィンドウで “関東営業部” を選択します。
- ③ “関東営業部” の中村さんのエージェントを選択します。
- ④ポリシー管理 ウィンドウから [ハードウェア情報] タブをクリックします。



###### (b) レポートでグループ別に確認

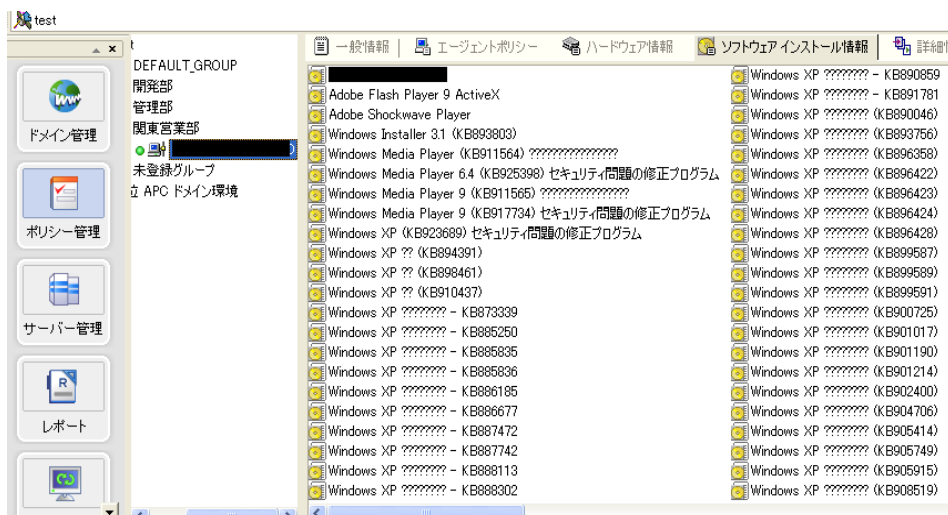
- ①メインメニューから [レポート] を選択します。
- ②レポート ウィンドウから “一般レポート” の “エージェント一般情報” から “エージェントハードウェア情報” を選択します。

- ③“エージェント ハードウェア情報”ウィンドウの右上部にある[レポート作成] ボタンをクリックします。
- ④[レポート選択事項入力] ダイアログ ボックスで“関東営業部”を選択し、必要事項を選択後[OK] をクリックします。
- ⑤“関東営業部”に属しているエージェントのハードウェア情報を詳しく確認できます。
- ⑥“資産管理情報レポート”では、ハードウェアの種類別に詳細を確認できます。

## ■ エージェントがインストールされたシステムのソフトウェア情報表示

### (a) [ポリシー管理] でエージェント別のソフトウェア情報確認

- ①メインメニューから[ポリシー管理] を選択します。
- ②グループ ウィンドウで“関東営業部”を選択します。
- ③“関東営業部”の中村さんのエージェントを選択します。
- ④ポリシー管理 ウィンドウから[ソフトウェア情報] タブをクリックします。



### (b) レポートでグループ別に確認

- ①メインメニューから[レポート] を選択します。
- ②レポート ウィンドウから“一般レポート”の“エージェント一般情報”から“ソフトウェア別インストールユーザーリスト”を選択します。
- ③“ソフトウェア別インストールユーザーリスト”ウィンドウの右上部にある[レポート作成] ボタンをクリックします。
- ④[レポート選択事項入力] ダイアログ ボックスで“関東営業部”を選択し、必要事項を選択後[OK] をクリックします。
- ⑤“関東営業部”に属しているエージェントの“ソフトウェア別インストール情報”を詳しく確認できます。
- ⑥“資産管理関連レポート”では、エージェント別のソフトウェアインストール情報を確認できます。

## ◆ エージェント管理

### ■ グループ移動（部署移動）

#### (a) エージェントの移動

例として中村さんが関東営業部から開発部に異動になった場合を挙げます。この時、中村さんに関西営業部のポリシーを適用したいとします。

- ①グループ ウィンドウの“関東営業部”の“中村”エージェントを選択しドラッグ アンド ドロップで“開発部”に移動します。
- ②“開発部”に移動した事を確認します。
- ③“中村”エージェントは“開発部”のポリシーが自動適用されます。

#### (b) 複数のエージェントの移動/コピー

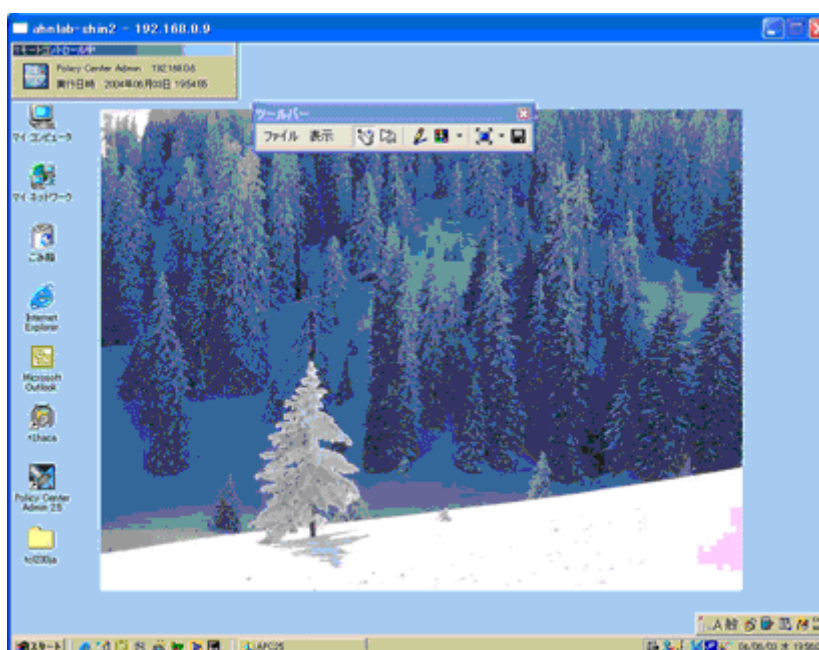
部署の統合や定期人事異動などで複数のグループ/エージェントを移動/コピーしたい場合は、Group Editor を使用します。

- ①Policy Center Admin を終了します。
- ②[スタート]-[プログラム]-[AhnLab]-[AhnLab Policy Center 3.0]-[Group Editor] をクリックして、[ログイン] ダイアログ ボックスからログインします。ID とパスワードは Policy Center Admin と同じです。
- ③グループ ウィンドウやメイン ウィンドウからグループ/エージェントを選択し、メインメニューから [編集]-[切り取り] をクリックします。複数の選択も可能です。
- ④グループ ウィンドウやメイン ウィンドウから貼り付けたいグループを選択し、メインメニューから [編集]-[貼り付け] をクリックします。

## ■ エージェントのリモートコントロール

例として中村さんのコンピュータに原因不明の異常が発生し、管理者が直接中村さんのコンピュータをコントロールする必要がある場合を想定します。

- ①グループ ウィンドウの“関東営業部”の“中村”エージェントを選択します。
- ②[ツール]-[リモートコントロール] を選択します。
- ③“リモートコントロールを要求しています”というダイアログ ボックスが表示され、中村さんの許可を待ちます。
- ④中村さんのコンピュータには [リモートコントロールを要求] ウィンドウが表示されますので、許可します。
- ⑤中村さんが許可すると、管理者の画面に中村さんのコンピュータの画面が表示されます。



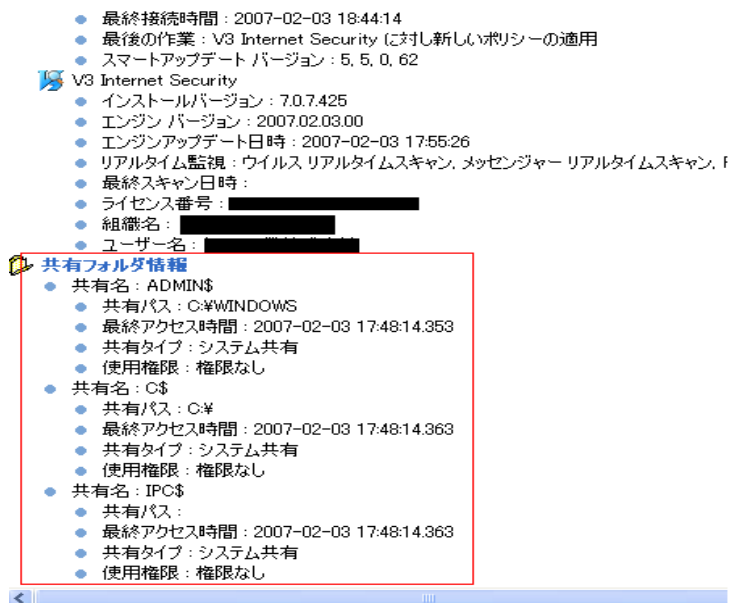
- ⑥管理者は表示された画面で直接コントロールすることができます。

## ◆ 共有フォルダ管理

### ■ 共有フォルダ情報取得

グループ/エージェントごとに共有フォルダ情報を取得して Policy Server にアップロードさせ、Policy Center Admin から状態を確認したり、共有を解除することができます。

- ①メインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- ②ポリシー ウィンドウで“中村”を選択します（グループも選択可能）。
- ③“中村”を右クリックし、[共有フォルダ管理]-[共有フォルダ情報取得] をクリックし、確認ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。
- ④数分後、グループ ウィンドウで“中村”を選択しポリシー ウィンドウの [一般情報] タブをクリックすると、共有情報が表示されます。

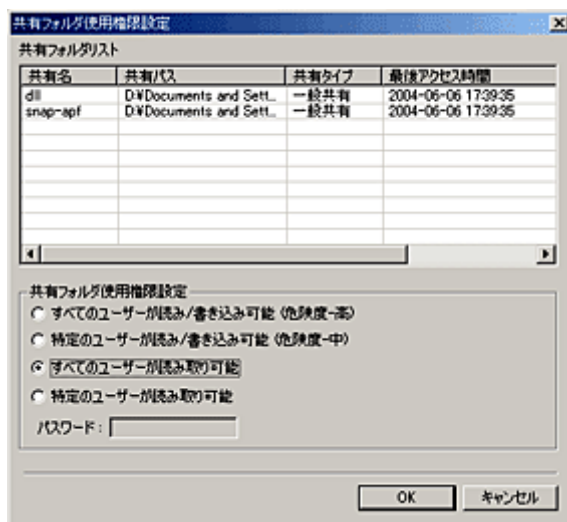


### ■ 共有フォルダ使用権限変更/共有フォルダ解除

エージェントごとに共有権限を変更/解除できます。グループ単位では解除のみ可能です。

- ①メインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- ②ポリシー ウィンドウで“中村”を選択します。
- ③“中村”を右クリックし、[共有フォルダ管理]-[共有フォルダ使用権限変更] をクリックします。
- ④共有フォルダごとの“共有タイプ”を確認し、[共有フォルダ使用権限設定] からオプションを選択して共有権限を変更し [OK] をクリックすると、権限が変更されます。

- ⑤数分後、グループ ウィンドウで“中村”を選択しポリシー ウィンドウの「一般情報」タブをクリックすると、共有情報の変更内容を確認できます。



この機能を使用するには、あらかじめ【共有フォルダ情報取得】を実行しておきます。



共有の解除を実行した場合、Policy Center Admin から再度共有設定はできません。



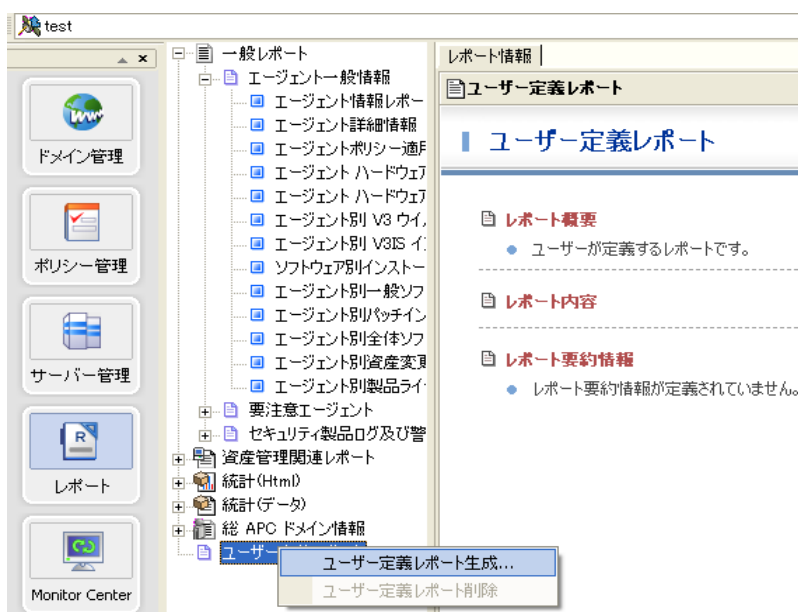
システム共有の解除を実行しても、コンピュータの再起動時に再度共有が設定されます。

## ◆ ユーザー定義レポート作成

社内で必要な情報を、あらかじめ管理者がレポート形式を定義して管理すると便利です。

例として“資産管理”というタイトルでエージェント ハードウェアのユーザー定義レポートを作成し、Excel ファイルで保存してみます。

- ①レポート ウィンドウから“ユーザー定義レポート”を選択します。
- ②“ユーザー定義レポート”を右クリックし、[ユーザー定義レポート生成] をクリックします。



- ③[ユーザー定義レポート生成] ダイアログ ボックスで [レポートタイトル] フィールドに“資産管理”と入力します。
- ④[データフィールド選択] リストでユーザー定義レポートの基本テーブルになる“エージェント情報テーブル”を選択します。
- ⑤右のドロップダウン リストから、“エージェント情報テーブル”のフィールドの中で [ユーザー名] を選択し [追加] ボタンをクリックします。
- ⑥④～⑤と同じ手順で左リストから“エージェント ハードウェア情報”を選択し、右リストから [CPU 名]、[メインメモリ容量] を選択します。



⑦[レポート説明] に“資産管理”と入力し、[レポート作成] をクリックします。

ユーザー定義レポート生成

レポートタイトル  
資産管理

データフィールド選択

エージェント ハードウェア情報 CPU詳細名 追加(A)

| テーブル名          | フィールド名   |
|----------------|----------|
| エージェント情報テーブル   | ユーザー名    |
| エージェントハードウェア情報 | CPU名     |
| エージェントハードウェア情報 | メインメモリ容量 |

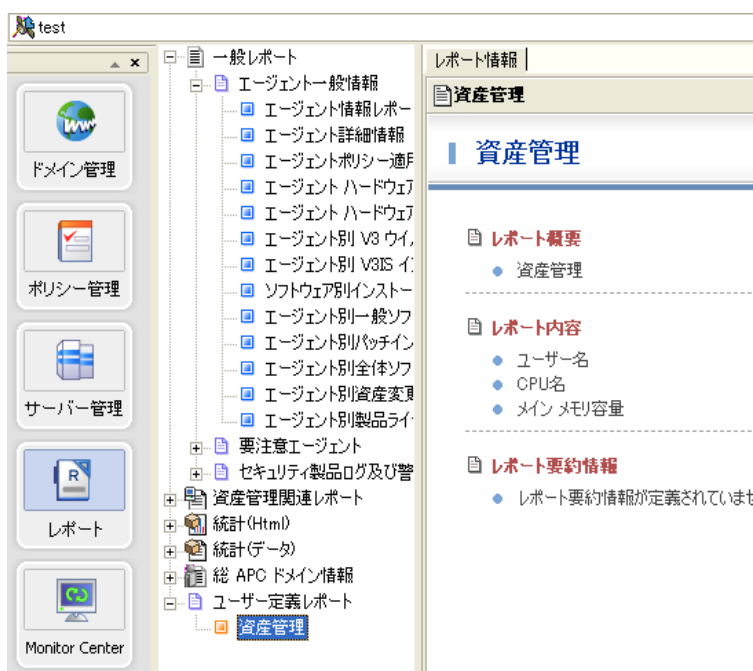
上へ移動(D) 下へ移動(D) 削除(R)

レポート説明  
資産管理

☐ レポート作成時期間を入力 (I)  
☐ レポート作成時 TOP N を入力 (N)

レポート作成 キャンセル

⑧レポート ウィンドウで“ユーザー定義レポート”の下に“資産管理”という項目が追加された事を確認します。



⑨“資産管理”レポートを選択してウィンドウの右上部にある [レポート作成] ボタンをクリックします。

⑩[レポート選択事項入力] ダイアログ ボックスで必要事項を選択後 [OK] をクリックすると、ユーザー定義に沿ったレポートが作成されます。

## ■ Excel ファイルで保存

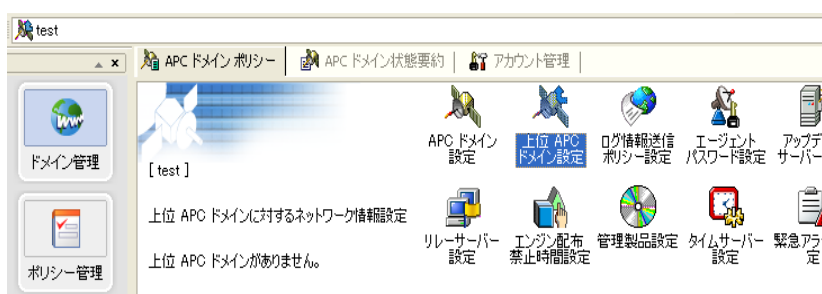
- ①先に作成したレポートを選択し、レポート ウィンドウの右上部にある「表示」をクリックします。
- ②「表示」メニューから「データ詳細表示」をクリックします。
- ③レポート ウィンドウの右上部にある「保存」をクリックします。
- ④「CSV フォーマットで保存」をクリックすると、CSV 形式で保存されます。
- ⑤「Excel にエクスポート」をクリックすると、自動的に CSV 形式で Excel にエクスポートされます。

## ◆ 上位 APC ドメイン設定

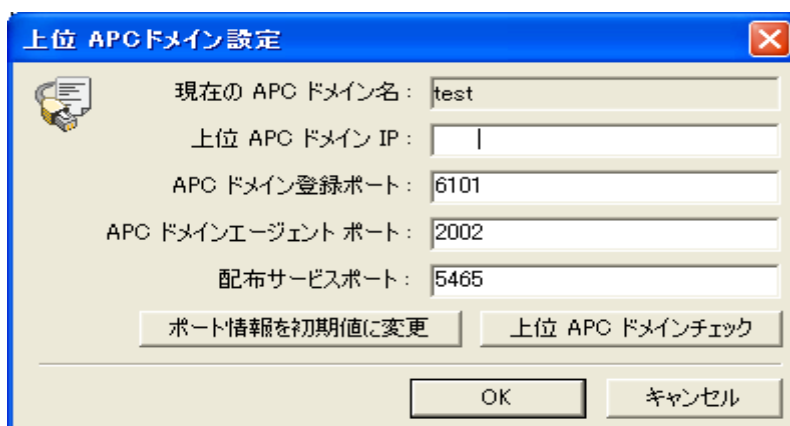
Test は、本社と大阪支社があるため、本社で支社 APC ドメインを設定し一括管理したいと考えています。本社で AhnLab Policy Center 3.0 をインストールし、支社にも AhnLab Policy Center 3.0 をインストールしました。支社で本社を上位 APC ドメインとして設定します。

## ■ 下位 APC ドメインから上位 APC ドメインを設定（支社 APC ドメインで本社 APC ドメインを指定）

- ①メインメニューから「APC ドメイン管理」を選択します。
- ②「APC ドメイン管理」ウィンドウで「上位 APC ドメイン設定」アイコンをクリックします。



- ③「上位 APC ドメイン設定」ダイアログ ボックスで本社 APC ドメインの IP アドレスとポートなどを設定した後、「確認」をクリックします。



- ④ 本社の [ポリシー管理] ウィンドウのグループ ウィンドウで“下位 APC ドメイン環境”に大阪支社の APC ドメインが登録されます。
- ⑤ ドメイン エクスプローラバーから大阪支社の APC ドメインを選択すると、ウィンドウが大阪支社の Policy Center Admin 画面に切り替わります。

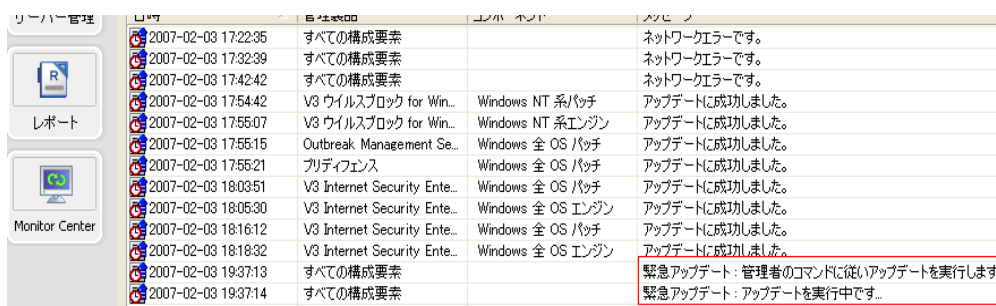
#### 4.11.4 緊急時の管理

ウイルス侵入時には迅速な対応が必要なため、ウイルスの拡散防止に次のようなシナリオを想定してみます。

- (1) Policy Server の緊急エンジンアップデート
- (2) すべてのポリシーグループ/エージェントのエンジンアップデート
- (3) すべてのポリシーグループ/エージェントのネットワーク接続を遮断
- (4) V3 Internet Security による手動スキャンを実行して感染エージェントを把握
- (5) ウイルス感染状態チェック

##### (1) Policy Server の緊急エンジンアップデート

- ① メインメニューから [サーバー管理] を選択します。
- ② [アップデートサーバー設定管理] タブを選択します。
- ③ アップデートサーバー設定管理ウィンドウの右上部にある [緊急アップデート] をクリックするとサーバーの緊急アップデートが実行されます。
- ④ 作業ログ ウィンドウから [緊急アップデート: 最新バージョンにアップデートされています] または [アップデートに成功しました] というメッセージを確認します。

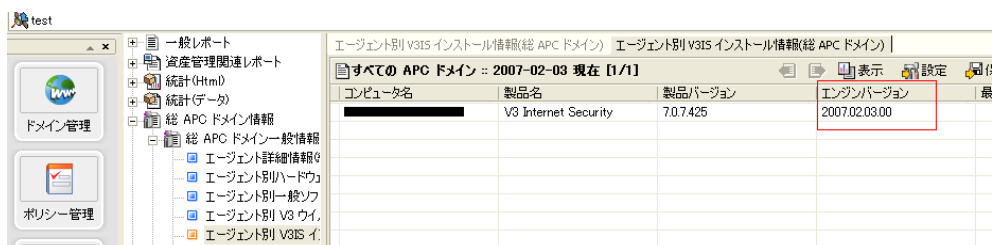


| 日時                  | 更新要素                         | 更新内容              | コメント                              |
|---------------------|------------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 2007-02-03 17:22:35 | すべての構成要素                     |                   | ネットワークエラーです。                      |
| 2007-02-03 17:32:39 | すべての構成要素                     |                   | ネットワークエラーです。                      |
| 2007-02-03 17:42:42 | すべての構成要素                     |                   | ネットワークエラーです。                      |
| 2007-02-03 17:54:42 | V3 ウイルスブロック for Win...       | Windows NT 系パッチ   | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 17:55:07 | V3 ウイルスブロック for Win...       | Windows NT 系エンジン  | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 17:55:15 | Outbreak Management Se...    | Windows 全 OS パッチ  | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 17:55:21 | ブリディフェンス                     | Windows 全 OS パッチ  | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 18:03:51 | V3 Internet Security Ente... | Windows 全 OS パッチ  | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 18:05:30 | V3 Internet Security Ente... | Windows 全 OS エンジン | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 18:16:12 | V3 Internet Security Ente... | Windows 全 OS パッチ  | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 18:18:32 | V3 Internet Security Ente... | Windows 全 OS エンジン | アップデートに成功しました。                    |
| 2007-02-03 19:37:13 | すべての構成要素                     |                   | 緊急アップデート：管理者のコマンドに従いアップデートを実行します。 |
| 2007-02-03 19:37:14 | すべての構成要素                     |                   | 緊急アップデート：アップデートを実行中です。            |

##### (2) すべてのグループ/エージェントのエンジンアップデート

- ① メインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- ② ポリシー ウィンドウで最も上にある APC ドメイン“Test”を選択します。
- ③ “Test”を右クリックし、[緊急セキュリティコマンド]-[手動アップデート] をクリックし、[手動アップデート] で [OK] をクリックして手動アップデートを実行します。
- ④ 下位 APC ドメインがある場合は、APC ドメイン切り替えバーで下位 APC ドメインに管理ウィンドウを切り替え、③の手順を実行します。

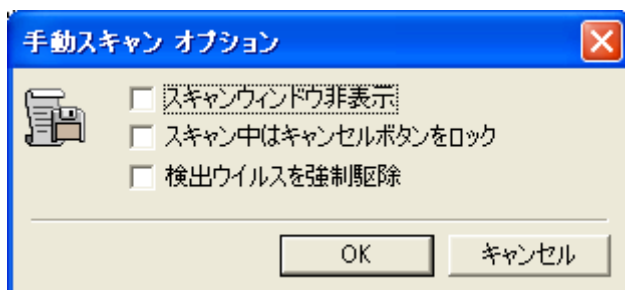
- ⑤下位 APC ドメインを含め、すべてのエージェントのエンジン バージョンを確認するには、メインメニューから [レポート]-[総 APC ドメイン情報]-[総 APC ドメイン一般情報]-[エージェント別 V3IS/V3Net7.0 インストール情報(総 APC ドメイン)] をクリックし、レポート ウィンドウの右上部にある [レポート作成] をクリックします。
- ⑥V3 Internet Security のインストール情報とともにすべてのエージェントの“エンジンバージョン”が表示されますので、アップデート状態を確認します。



| コンピュータ名 | 製品名                  | 製品バージョン  | エンジンバージョン     |
|---------|----------------------|----------|---------------|
|         | V3 Internet Security | 7.0.7425 | 2007.02.03.00 |

### (3) 手動スキャン

- ①メインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- ②ポリシー ウィンドウで“Test”を選択します。
- ③“Test”を右クリックし、[ウイルススキャン]-[手動スキャン] をクリックし、[手動スキャン オプション] で必要なオプションをオンにして手動スキャンを実行します。

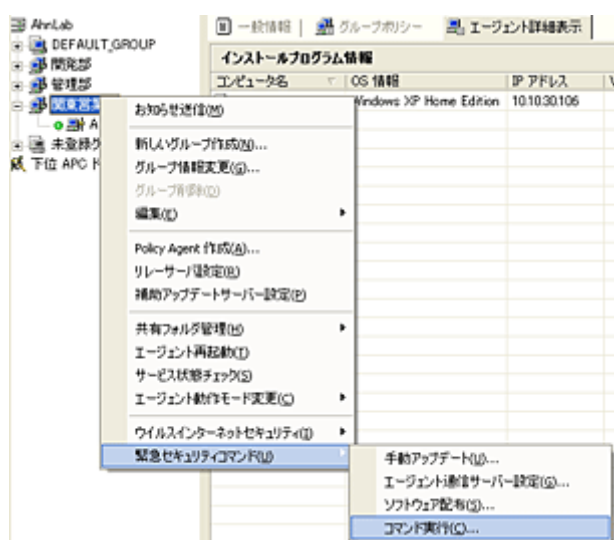


- ④下位 APC ドメインがある場合は、APC ドメイン切り替えバーで下位 APC ドメインに管理ウィンドウを切り替え、③の手順を実行します。

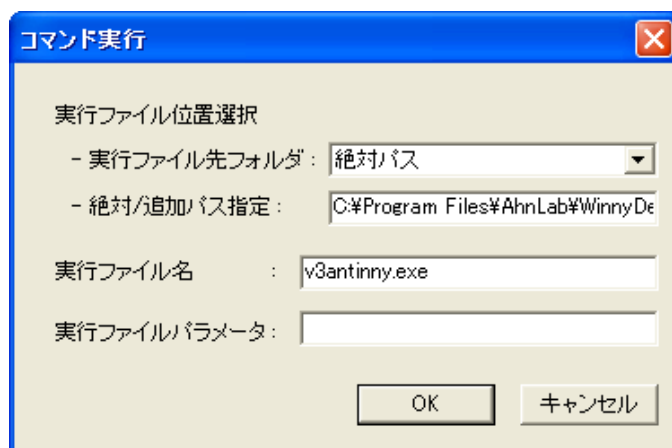
### (4) コマンド実行

- ①メインメニューから [ポリシー管理] を選択します。
- ②ポリシー ウィンドウで実行するグループや該当エージェントを選択します。

③下のように右クリックし、[緊急セキュリティコマンド]-[コマンド実行] をクリックします。



④コマンドウィンドウでエージェントに設置されている実行ファイルを設定して実行します。



#### (5) ウイルス感染状態チェック

- ①メインメニューから [Monitor Center] を選択します。
- ②ウイルスに感染したエージェントがある場合、[V3IS/V3Net7.0]-[ウイルス警告] に表示されます。
- ③感染エージェントをダブルクリックすると、Policy Center Admin のグループ ウィンドウで該当エージェントが自動的に表示されるため、状態を把握できます。